

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：野下 卓泰
授業科目名：体育理論	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
科目に含めることが必要な事項	体育		
<p>授業の到達目標及びテーマ： 健康の保持増進に身体活動が果たす役割は極めて大きい。そのため本講義では、健康と身体活動との関連について理解すると共に、身近なテーマを題材としてその実態と現代的健康課題について学ぶ。また、子ども及び自らの健康実態を知り、生涯を通じた心身共に健康の保持増進に必要な具体的方策を立てる能力を養うことも目指す。</p>			
<p>授業の概要： 健康、体力に関する概念を把握し、生涯に渡って自ら健康寿命の延伸に寄与する取り組みが行えるための「最新のスポーツ科学の知見」について理解を深める。 ☆課題に対するフィードバックの方法 ◎学生から寄せられた質問や感想等は、必要に応じて授業中に全学生に対しその内容を伝え解説を加える等の対応を行っている。 ◎授業内課題およびレポート等は、翌週以降にコメントを付けて返却する。</p>			
<p>第1回：オリエンテーション 授業概要について 第2回：健康とは？ 第3回：スポーツとは？ 第4回：スポーツマンシップとは？ 第5回：脳科学的根拠を基に子どもとの関わりを考える 第6回：幼少期の身体の発達 第7回：幼少期の運動遊び・スポーツとその指導 第8回：運動遊び・体育指導の基本と実際 第9回：子どもの体力低下について 第10回：スポーツにおけるモチベーション（動機づけについて） 第11回：運動のメカニズム 第12回：スポーツ場面での怪我や病気 第13回：スポーツにおける応急処置、心肺蘇生法の基礎知識 第14回：スポーツと保護者 第15回：これからのスポーツ・体育について</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：随時パワーポイントで資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：◎スポーツマンシップバイブル 中村聡宏著 東洋館出版社</p>			
<p>学生に対する評価： ①授業取り組み（各回課題の内容・ポイントを理解し取り組んでいるか）20% ②グループ課題（授業のテーマについて、グループごとに発表を行う）30% ③定期試験50%（日頃から「子ども・健康・教育・スポーツ全般・福祉」等をキーワードに、新聞・雑誌&インターネット等を利用し情報収集を行い、自身の身の回りの状況に目を向ける習慣を身に付けることが望ましい。）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ： 体育やスポーツについて、皆さんとともに深めていけたらと考えています。卒業するための学びだけでなく、一生涯活かせる学びをしていきましょう！皆さんとお会いできることを楽しみにしています。</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：野下 卓泰
授業科目名：体育実技	必修	1単位 (30時間)	担当形態：単独 / 実技
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
科目に含めることが必要な事項	体育		
<p>授業の到達目標及びテーマ： 運動やスポーツを通して自己の心身について認識し、またお互いを認め合いコミュニケーションスキルを高め合いながら、心もからだも良い状態に維持・向上させる習慣を身に付けることができる。また、生涯スポーツのきっかけとして「運動は楽しい」という感度を味わうことができる。</p>			
<p>授業の概要： ・自分の体力を把握すると共に、身近にある様々な用具を使い、グループワークやディスカッションを取り入れてスポーツを楽しみ、学生自らが基礎体力を養える援助を行う。 ・実技と並行し、アクティブ・ラーニングの取り組みとして google classroom を利用し、学生各自で作成した運動プログラムを日々実践し、週単位で振り返り自己評価を行う。まとめとしてこれらを資料とし、科学的根拠を基に振り返り、これからの人生における運動やスポーツとの関わりについて、レポートとしてまとめていけるよう働きかける。 ☆課題に対するフィードバックの方法 ◎学生から寄せられた質問や感想等は、必要に応じて授業中に全学生に対しその内容を伝え解説を加える等の対応を行っている。 ◎授業内課題およびレポート等は、翌週以降にコメントを付けて返却する。</p>			
<p>第1回：オリエンテーション 授業概要・評価方法・日々の身体活動について 第2回：鬼遊び① 運動特性の理解 第3回：ベースボール型ゲーム① ゲーム特性の理解 第4回：ベースボール型ゲーム② ゲーム実践 第5回：陸上運動① 運動特性の理解 第6回：ゴール型ゲーム① ゲーム特性の理解 (フラッグフットボール) 第7回：ゴール型ゲーム② ゲーム実践 (フラッグフットボール) 第8回：ゴール型ゲーム③ ゲーム特性の理解 (パスゴールゲーム) 第9回：器械運動① 運動特性の理解 第10回：器械運動② 運動実践 第11回：器械運動③ 機能的特性をどう作るか？ 第12回：ネット型ゲーム① ゲーム特性の理解 (フロアボール、プレルボール) 第13回：ネット型ゲーム② ゲーム特性の理解 (バレーボール) 第14回：ネット型ゲーム③ ゲーム実践 第15回：ターゲット型ゲーム① ゲーム特性の理解</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト：随時パワーポイントで資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：◎スポーツマンシップバイブル 中村聡宏著 東洋館出版社</p>			
<p>学生に対する評価： ①毎回の授業（各自が到達目標・各回のポイントを意識し取り組んでいるか：授業に臨む準備が良好であるか・コミュニケーションを取りながら行われているか等）60% ②毎回の授業の振り返りレポート 20% ③最終レポート試験（題目「身体活動を通じた自らの心身の変化を科学的根拠を基に分析し、人生を豊かになるための今後の身体活動との関わりを考察する」）20% ※服装はスポーツウェア、靴は運動靴に限定し、それ以外の着用は安全上の観点から参加は認められない。※※授業前は十分な睡眠と適切な食事をとり、体調管理に務めること。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ： 体育やスポーツについて、皆さんとともに深めていけたらと考えています。卒業するための学びだけでなく、一生涯活かせる学びをしていきましょう！皆さんとお会いできることを楽しみにしています。 ※服装はスポーツウェア、靴は運動靴に限定し、それ以外の着用は安全上の観点から参加は認められない。授業前は十分な睡眠と適切な食事をとり、体調管理に務めること。</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：冢田 三枝子
授業科目名：特別支援教育総論	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>①特別支援教育の基本的な考え方を理解し、他者に説明することができる。</p> <p>②特別支援教育の仕組みとその実際、通常学級にも在籍する発達障害をはじめとする障害のある子どもの特性と教育の実際について述べるができる。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>特別支援教育の基本的な考え方、小学校における特別支援教育、特別の教育課程、障害のある子どもの理解と支援の方法等について、講義・演習等を通して具体的に考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 特別支援教育とは？</p> <p>第2回：特別支援教育の理念と展開</p> <p>第3回：特別支援教育の歴史と現状</p> <p>第4回：インクルーシブ教育システム推進の仕組みと実際</p> <p>第5回：早期からの相談と就学先決定</p> <p>第6回：個別の教育支援計画と個別の指導計画</p> <p>第7回：小・中学校における特別支援教育</p> <p>第8回：通級による指導と特別支援学級における指導～特別な教育課程～</p> <p>第9回：発達障害児等の理解と指導・支援①（学習障害、ADHD、自閉症スペクトラム障害）</p> <p>第10回：発達障害児等の理解と指導・支援②（言語障害、情緒障害、不登校、虐待・貧困等）</p> <p>第11回：特別支援学校の教育課程</p> <p>第12回：障害児の理解と指導・支援①（知的障害）</p> <p>第13回：障害児の理解と指導・支援②（視覚障害、聴覚障害、盲ろう）</p> <p>第14回：障害児の理解と指導・支援③（肢体不自由、病弱・身体虚弱、重度・重複障害）</p> <p>第15回：「特別支援教育」まとめ ～共生社会の担い手を育てるためへの取組～</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：「教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト：気付き、工夫して、つなげる」小林倫代編著、Gakken</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>「特別支援学校学習指導要領」「学習指導要領解説自立活動編」文部科学省</p> <p>その他、必要に応じて指示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験（60%）、レポート・講義への参加（20%）、課題発表（20%）により総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>教育実習やボランティア等での経験と重ねて考えられるようにすること。</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：吉田 浩幸
授業科目名：特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	総合的な学習の時間の指導法・特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ： 特別活動及び総合的な学習の時間の意義と原理について理解し、各教科・領域の学習や生徒指導との関係を考えながら実践に生かせるようにする。			
授業の概要： 特別活動及び総合的な学習の時間の目標や内容について理解を深めるとともに、小学校の学級担任の視点を中心に、具体的な実践事例の検討や指導案作成等を通してその指導法について学習する。			
授業計画 第1回：学校教育における特別活動及び総合的な学習の時間 第2回：特別活動の目標と内容 第3回：学級活動の内容と実践(1) 学級や学校の生活づくり 第4回：学級活動の内容と実践(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 第5回：児童会活動の内容と実践 第6回：クラブ活動、学校行事の内容と年間指導計画及び実践 第7回：特別活動における話し合い活動と合意形成 第8回：特別活動と学級担任の役割～学級経営 第9回：総合的な学習の時間の目標と意義 第10回：総合的な学習の時間の内容構成 第11回：各学校において定める目標・内容の取扱い(1) 探究課題 第12回：各学校において定める目標・内容の取扱い(2) 単元計画と実践 第13回：特別活動及び総合的な学習の時間の評価 第14回：演習～グループワーク 単元構想案から実践へ 第15回：学校教育における特別活動及び総合的な学習の時間についての振り返り(授業のまとめ)			
定期試験			
テキスト： 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」(文部科学省) 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(文部科学省)			
参考書・参考資料等： 授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価： 定期試験(70%)及び授業での課題等(30%)を総合して評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 子どもたちにとっての小学校生活の基盤となる学級や授業を、教員として特別活動をとおしてどのように構想し作り上げるか、その中でとくに学級担任はどのような役割を果たすことができるかを中心軸に据え、議論しながら授業を進めます。より深い理解へとつなげるためにも主体的・積極的な参加を期待しています。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：中島 朋紀
授業科目名：道徳教育指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	道徳の理論及び指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育における基本的な考え方や内容を理解し、道徳教育の研究方法を身につける。 2. 方法原理を基に道徳問題や道徳的価値の分析をし、その指導方法を展開することができる。 3. 「考え・議論する」道徳授業の実践を構想することができる。 			
<p>授業の概要：</p> <p>人間形成の重要な役割を担う道徳教育の動向と課題を明確にししながら、道徳教育の基礎理論と実践を展開する。基礎理論では、道徳及び道徳教育の基本的な問題にアプローチし、学校における道徳教育を中心に考察する。実践・方法論では道徳教育の目標と内容、指導計画、授業構成、実践的指導、道徳教育の要となる「考え、議論する」道徳科について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教師の道徳意識・基本姿勢—道徳教育の意義—</p> <p>第2回：道徳の本質と道徳教育</p> <p>第3回：道徳教育の歩み・変遷</p> <p>第4回：子ども理解と道徳性の発達</p> <p>第5回：道徳教育の目標と内容</p> <p>第6回：道徳教育の全体的構想</p> <p>第7回：道徳教育の指導計画</p> <p>第8回：道徳科の授業論</p> <p>第9回：道徳授業の構成と展開</p> <p>第10回：「考え、議論する」道徳科授業の構想</p> <p>第11回：道徳学習指導案の作成1：教材・資料について（個人分析）</p> <p>第12回：道徳学習指導案の作成2：教材研究について（グループ・共同研究）</p> <p>第13回：道徳授業の実践・発表（相互評価・研究討議）</p> <p>第14回：道徳授業研究の方法1：課題と方法について</p> <p>第15回：道徳授業研究の方法2：評価活動について</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>大沢 裕・中島 朋紀編著「ともに考え深めよう！新たな道徳教育の創造」 一藝社 2019年 「小学校学習指導要領（平成29年7月告示）解説特別の教科 道徳編」 文部科学省 廣済堂あかつき</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>配付資料・プリント（授業時の指示）</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>レポート課題等の評価60%、定期試験40%を踏まえ総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業の実践に学び、学校におけるあるべき道徳教育のあり方を主体的に考える基盤を学ぶ。 ・道徳授業の実践事例、道徳の教科化について自分の考えを発表する。 			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：吉田 浩幸
授業科目名：生徒・進路指導論	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	生徒指導の理論及び方法・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： 生徒指導及び進路指導の意義と原理について理解し、教育課程に基づく指導（学習指導、学級・学校体制づくり等）との関係を考えながら実践に生かせるようにする。			
授業の概要： 児童・生徒を取り巻く社会の変化と近年の生徒指導の現状と課題を理解するとともに、生き方や勤労観・職業観を育てる教育等について、具体的な事例をもとに小学校教諭の立場から対応の仕方や指導法について考察する。			
授業計画 第1回：生徒指導の意義と構造 第2回：生徒指導の方法と基盤 ～ 小学校教諭にとっての生徒指導 第3回：生徒指導と教育課程 (1) 問題行動をめぐって 第4回：生徒指導と教育課程 (2) 適切な指導をめざして 第5回：生徒指導に関する法や制度 (1) 教員と暴力 第6回：生徒指導に関する法や制度 (2) 子どもと暴力 第7回：生徒指導体制 ～ 生徒指導と教育相談、関係機関との連携 第8回：個別の課題に対する生徒指導 (1) いじめ 第9回：個別の課題に対する生徒指導 (2) 児童虐待 第10回：個別の課題に対する生徒指導 (3) 不登校 第11回：生徒指導と進路指導・キャリア教育 (1) 進学指導 第12回：生徒指導と進路指導・キャリア教育 (2) 勤労観・職業観 第13回：生徒指導と進路指導・キャリア教育 (3) 小学校での実践 第14回：生徒指導・進路指導にかかわる評価 第15回：学校教育における生徒指導についての振り返り（授業のまとめ）			
定期試験			
テキスト：「生徒指導提要」文部科学省			
参考書・参考資料等：授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価：定期試験（70％）・授業での課題等（30％）を総合して評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 小学校教員として子どもたち（家庭・地域・関係機関などを含む）とどのように向き合い、何をどのように指導することが望ましいのかをとことん考えましょう。一人ひとりの子どもたちの現実まるごとを受け止めながら関わり、卒業後の生き方にも影響を与えるという、教員としての大いなるやりがいとそれに伴う専門職としての誇りと責任とを感じ取る授業を目指します。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：福島 洋子
授業科目名：児童教育相談	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： 児童期を中心に発達段階、発達課題、発達評価及び子どもを取り巻く環境などについて理解を深める			
授業の概要： 近年、不登校、いじめ、ネグレクト、発達障害など子どもに関する問題が複雑化している。児童に対し適切な対応がなされ、取り巻く環境がより望ましい方向へと変化するために検討していきたい			
授業計画 第1回：オリエンテーション：授業内容、進め方、評価の仕方などについて説明する 第2回：教育相談とは？定義 教育相談とカウンセリングの違い 教育相談（個別と集団） 第3回：教育相談におけるアセスメント 事例を通してアセスメント・シートを完成させる 第4回：教育相談と第一次予防、第二次予防、第三次予防 それぞれの支援の違い 第5回：教育相談におけるアセスメント（心理検査） 知能検査を実施する際の注意点 第6回：知能検査とIQの関係 WISCの検査結果と解釈 第7回：各発達段階に出現しやすい問題（乳児期、幼児期、児童期、青年期） 第8回：第1回～第8回までのまとめテスト 第9回：カウンセリングの基本的技法 相談の背景にある「問題」を捉える 第10回：カウンセリングの基本的技法 傾聴における基本的技法（くり返し、感情の反射、要約） 第11回：カウンセリングの基本的技法 傾聴における基本的技法（明確化） 第12回：カウンセリングの基本的技法 ロールプレイ 第13回：保護者支援における教育相談 第14回：「問題行動」と教育相談 不登校…事例検討 第15回：「問題行動」と教育相談 発達障害…事例検討 定期試験			
テキスト： 学校現場で役立つ 教育相談（北大路書房）			
参考書・参考資料等： 特にありません			
学生に対する評価： 定期試験、中間テスト60%、 提出物・レポート課題20%、 受講態度20%			
履修上の注意・メッセージ： 教員と目指す学生として、ふさわしいマナーを守って受講していただきたい（詳しくは、オリエンテーションの時に伝えます）。また、授業内で個人情報扱うことが多いので、十分注意して受講ください			

児童科初等課程・2年 授業科目名： 教職実践演習	区分： 必修	単位数(時間数)： 2単位 (30時間)	担当教員名： 田中正雄、安富直樹、吉田浩幸 担当形態： 複数 / 演習
科 目	教育実践に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教職実践演習		
授業の到達目標及びテーマ： 1 各自が教職実践ファイル等をもとにこれまでの学修について振り返る中から、自分なりの問題意識をもち、さらに調べたり考えたりして報告集の原稿を作成することができる。 2 教育実習を通して自ら問題意識をもったことについてグループで調べたり話し合ったりしながら理解を深め、その成果を報告会で提案することができる。			
授業の概要：これまで学修した専門的な知識や技能と、教育実習を通して自ら習得した児童理解・教科指導・学級経営等に関する実践的な知識や技能から、教職及び教育について振り返り、グループで共有する。設定した個人テーマから学びが深められるよう調査活動や討議を重ね、研究成果を報告集にまとめる。教職実践報告会において、個人あるいはグループで報告をし、後進の育成にも努める。			
授業計画 第1回：本演習の目的と概要（研究テーマ 及び 研究の方法の確認） 第2回：教職の意義、教師の役割、職務内容① 研究授業の振り返り 第3回：教職の意義、教師の役割、職務内容② 児童指導・特別支援教育等の気づきの共有 第4回：教職の意義、教師の役割、職務内容③ 研究テーマと研究方法についての討議 第5回：報告書の書き方（構成、事例研究、文献引用の仕方）、作成のための研究方法 第6回：小学校授業観察（各自のテーマにしたがった授業参観） 第7回：授業観察の振り返り、報告書原稿作成① 第8回：報告集原稿作成② 中間報告 第9回：報告集原稿作成③ 第10回：報告集原稿作成④ 完成 第11回：教職実践報告会準備① 報告会用スライドの作成 第12回：教職実践報告会準備② 報告会用スライドの作成 第13回：既習講義の振り返り、教職実践報告会リハーサル 第14～15回：教職実践報告会			
テキスト： 「小学校教育実習ガイド」石橋裕子 他 編著（萌文書林）			
参考書・参考資料等： 教職実践ファイル・教育実習日誌・小学校学習指導要項			
学生に対する評価： 教育実践ファイル作成（50%）、教職実践報告会・報告書の原稿完成・学習への参加態度（50%）			
履修上の注意・メッセージ： これまでの学修や教育実習のまとめを通して、教職に対するさらなる意識の向上を期待する。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：新関 伸也
授業科目名：小学課程図工	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項		
授業の到達目標及びテーマ： 図画工作科の表現や鑑賞に関する実習を通して、児童の造形活動の意味を捉えながら、指導に必要な基礎的な技術や知識を身に付ける。			
授業の概要： 図画工作科の内容である「造形遊び」「絵に表す」「立体に表す」「工作」および「鑑賞」に関する実習を通して、教師の指導に求められる基礎的な技術や知識を獲得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、図画工作科における児童観 第2回：図画工作科の[共通事項]と造形要素 第3回：造形遊びⅠ（自然物や人工の材料） 第4回：造形遊びⅡ（材料と場所） 第5回：絵に表すⅠ（感じたこと・見たこと） 第6回：絵に表すⅡ（想像したこと） 第7回：立体に表すⅠ（好きな形） 第8回：立体に表すⅡ（表したいことを見つける） 第9回：工作に表すⅠ（用途） 第10回：工作に表すⅡ（伝えたいこと） 第11回：鑑賞Ⅰ（児童の作品） 第12回：鑑賞Ⅱ（親しみのある作品） 第13回：情報機器の教材活用（アニメーション） 第14回：材料・用具・安全指導 第15回：小学課程図工に関するまとめと表現及び鑑賞活動の省察			
定期試験			
テキスト： 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』日本文教出版			
参考書・参考資料等： 小学校「図画工作科教科書」日本文教出版			
学生に対する評価： 課題・授業内での作品・提出物(70%)、定期試験またはレポート(30%)			
履修上の注意・メッセージ： 授業以外に予習や復習課題があります。また、各自で実習に必要な材料や用具を持参してもらうことがあります。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岩佐 洋子
授業科目名：小学課程家庭	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項		
授業の到達目標及びテーマ： 1 小学校における家庭科教育の意義と特性を理解し、指導に必要な知識・技能を習得している。 2 家庭科の学びを通して、児童が主体的に生活していく力を育むためには、どのような指導が求められるかについて考察している。			
授業の概要： 家庭科の学習を通して、児童の生活の自立の基礎の確立とともに、社会の変化に柔軟に対応する力を育成していることを理解する。併せて、教員として指導に必要な知識・技能を習得するとともに、指導上の配慮事項や安全・衛生等に関わる指導等についても理解を深める。			
授業計画 第1回：家庭科教育の意義と特性について 第2回：小・中・高校を通じた家庭科の学び、教科の目標、内容構成等について 第3回：内容の取扱い① 「A家族・家庭生活」 1)家族・家庭の役割について 第4回：内容の取扱い② 「A家族・家庭生活」 2)生活時間及び家庭の仕事について 第5回：教育実習校における家庭科の取り組みについて（教育実習校における学び） 第6回：内容の取扱い③ 「B衣食住の生活」 1)衣生活領域の指導について 第7回：内容の取扱い④ 「B衣食住の生活」 2)布を用いた製作・手縫いの基礎 第8回：内容の取扱い⑤ 「B衣食住の生活」 3)布を用いた製作・ミシン縫いの基礎 第9回：内容の取扱い⑥ 「B衣食住の生活」 4)布を用いた製作・応用作品の製作 第10回：内容の取扱い⑧ 「B衣食住の生活」 6)住生活領域の指導について 第11回：内容の取扱い⑨ 「B衣食住の生活」 7)食生活領域の指導について 第12回：内容の取扱い⑩ 「B衣食住の生活」 8)調理の基礎・ゆでる・いためるについて 第13回：内容の取扱い⑪ 「B衣食住の生活」 9)調理の基礎・米飯・みそ汁・だしについて 第14回：内容の取扱い⑫ 「B衣食住の生活」 10)調理の基礎に関わる実験・実習について 第15回：内容の取扱い⑬ 「C消費生活・環境」の指導について			
定期試験 テキスト： 「小学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省 東京書籍 「小学校 わたしたちの家庭科 5・6」鳴海多恵子 他著 開隆堂			
参考書・参考資料等： 「中学校学習指導要領」第2章 第8節 技術・家庭 文部科学省 「高等学校学習指導要領」第2章 第9節 家庭 文部科学省			
学生に対する評価： 授業時の課題（35%）、定期試験（課題レポート）（65%）			
履修上の注意・メッセージ： この授業を通して、家庭科教育の意義について考えを深めてほしい。また、家庭科の授業では実験・実習を通じた学びが多く、児童にとっては楽しい学びの時間だが、教員には、安全や衛生等の確保の観点から、指導上、どのような注意や配慮が求められるかについても考えを深めて欲しい。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：海老原 修
授業科目名：小学課程体育	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ために「運動に親しむ資質や能力の育成」「健康の保持増進」「体力の向上」が相互に関連する仕組みを、自らの体験を振りかえり、実践的な理解を深める。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ねらいと内容の理解を深める、主体的で対話的な学びを体得するべく、具体的な事例を創案・発表・内省する資質と能力を向上させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション ～授業のすすめ方・評価方法・指導案作成～</p> <p>第2回：小学校学習指導要領・目標「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」とは～運動遊びと体育はスポーツにつながるか～</p> <p>第3回：小学校学習指導要領・目標「運動に親しむ資質や能力の育成」～運動有能感と無能感～</p> <p>第4回：小学校学習指導要領・目標「健康の保持増進」～健康のファラシー～</p> <p>第5回：小学校学習指導要領・目標「体力の向上」～体力低下の正体～</p> <p>第6回：歩行速度と脈拍の関係①：平均値、標準偏差、変動係数</p> <p>第7回：歩行速度と脈拍の関係②：散布図、相関係数・回帰係数、回帰式の算出</p> <p>第8回：歩行速度と脈拍の関係③：データ集計と共有化の実際</p> <p>第9回：歩行速度と脈拍の関係④：歩幅測定にみる平均値の差の検定(群間のt検定)</p> <p>第10回：歩行速度と脈拍の関係④：歩幅測定にみる左右差の検定(対のt検定)</p> <p>第11回：子どものスポーツライフ・データ分析①：体力低下の操作手順</p> <p>第12回：子どものスポーツライフ・データ分析②：体力と学力の関連性</p> <p>第13回：子どものスポーツライフ・データ分析③：運動遊び・リードアップゲームからスポーツへ</p> <p>第14回：子どものスポーツライフ・データ分析④：JASP・HAD分析の実際①</p> <p>第15回：子どものスポーツライフ・データ分析⑤：JASP・HAD分析の実際②</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト：「小学校学習指導要領 体育編」 解説 文部科学省</p> <p>参考書・参考資料等：笹川スポーツ財団(2023)：「子ども・青少年のスポーツライフ・データ2023」 笹川スポーツ財団(2020)：「スポーツ白書2020」</p> <p>学生に対する評価：</p> <p>グループワークによる模擬授業のプレゼンテーションへの自己省察と批評を繰り返すポートフォリオ型のレポート(70%)、定期試験(10%)、平常点(20%)など総合的に評価する。</p> <p>履修上の注意・メッセージ：特になし</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：有馬 武裕
授業科目名：生活科指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ： ①体験や活動の特性を生かした指導計画作成の必要性に気付くことができる。 ②指導と評価が一体化した学習指導案作成の仕方を理解し、作成することができる。 ③実践例や模擬授業を通して、実践的な指導法を身に付けることができる。			
授業の概要： 学習指導要領の資質・能力を踏まえた生活科教育法を習得するために、生活科の理念と趣旨、課題を認識し、授業作りを通して指導のあり方、指導と評価の一体化、指導計画の重要性の理解が深められるようにする。具体的事例を通して授業を展開し、個別・グループなどの学習形態の工夫した参加型授業を意図的に構成していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 生活科の学び 第2回：生活科の目標・内容構成と授業における配慮事項 第3回：生活科の学習過程 第4回：年間指導計画づくり(単元目標、評価規準、指導と評価) 第5回：指導案作成 第6回：模擬授業・指導案検討 (1) 学校と生活 第7回：模擬授業・指導案検討 (2) 家庭と生活 第8回：模擬授業・指導案検討 (3) 地域と生活 第9回：模擬授業・指導案検討 (4) 公共物や公共施設の利用 第10回：模擬授業・指導案検討 (5) 季節の変化と生活 第11回：模擬授業・指導案検討 (6) 自然や物を使った遊び 第12回：模擬授業・指導案検討 (7) 動植物の飼育・栽培 第13回：模擬授業・指導案検討 (8) 生活や出来事の伝え合い 第14回：模擬授業・指導案検討 (9) 自分の成長 第15回：生活科指導法のまとめ 学習評価と通常学級における配慮			
定期試験 テキスト：「小学校学習指導要領解説 生活編 平成29年7月」 文部科学省			
参考書・参考資料等： 「指導と評価の一体化のための学習評に関する参考資料 文部科学省 田村 学 2017 「カリキュラム・マネジメント入門」 東洋館出版社			
学生に対する評価： 定期試験(30%)、模擬授業(40%)、振り返りレポート(30%)			
履修上の注意・メッセージ： 模擬授業では、積極的に授業作りにかかわり、グループで協力して取り組むこと。グループで話し合う場では、主体的に参加すること。毎回「振り返りレポート(今日の学び)」を提出すること。なお、欠席時も講義資料や指導案を参照し、今日の学びを提出すること。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：田中 正雄
授業科目名：音楽科指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ：小学校音楽科の授業を実施するための基本的な内容に関して、理論と実践の両面から理解し、音楽科指導に必要な実践的指導力を身に付ける。			
授業の概要：音楽科のカリキュラムの構造と内容、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の指導法、各種教材の実践方法など、音楽科教育に関する内容を講義と演習を通して学ぶ。最終的に模擬授業を行い、教師役と児童役に分かれて、その実践的指導力を相互に検証する。			
授業計画 第1回：小学校学習指導要領（音楽）の目標・内容、学校教育における音楽科の意義 第2回：歌唱の学習と指導①（低学年の歌唱共通教材、身体活動をともなった歌唱活動） 第3回：歌唱の学習と指導②（中学年の歌唱共通教材、同声二部合唱） 第4回：歌唱の学習と指導③（高学年の歌唱共通教材、混声三部合唱） 第5回：音楽づくりの学習と指導①（即興演奏、リズムを主体とした活動） 第6回：音楽づくりの学習と指導②（ヴォイスアンサンブル創作の教材演習） 第7回：音楽づくりの学習と指導③（実際の授業の様子から） 第8回：鑑賞の学習と指導①（低学年） 第9回：鑑賞の学習と指導②（中～高学年） 第10回：鑑賞の学習と指導③（音楽科の言語活動） 第11回：器楽の学習と指導 第12回：学習指導案の作成の実際、指導計画および音楽科の評価 第13回：学習指導案の検討と模擬授業①（低学年） 第14回：学習指導案の検討と模擬授業②（中学年） 第15回：学習指導案の検討と模擬授業③（高学年） 定期試験			
テキスト：改訂版 最新 初等科音楽教育法2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 初等科音楽教育研究会（音楽之友社）			
参考書・参考資料等： 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 文部科学省（東洋館出版社）			
学生に対する評価： 小論文による定期試験の評定（50%）、教材演習（20%）、模擬授業（30%）			
履修上の注意・メッセージ：教科の指導法はすべての授業に出席すべき内容を持っていますので、原則欠席をしないこと。万が一欠席をした場合には、担当教員やクラスメートから授業内容について確認をすること。器楽の内容は、「器楽合奏」の授業でも取り扱う。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：新関 伸也
授業科目名：図工科指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ：図画工作科の指導者に求められる基礎的・基本的な知識を理解し、授業を設計し、実践する力を身につける。			
授業の概要：学習指導要領における図画工作科の目標、内容、構造の理解を踏まえ、評価、情報機器の活用、学習指導案と授業設計に関する学修を行う。そのために模擬授業を行い、授業改善の視点から省察する。			
授業計画 第1回：図画工作科の目標と内容、図画工作科教科書 第2回：指導計画の作成と内容の取扱い、指導案 第3回：「造形遊びをする活動」の指導と評価 第4回：「造形遊びをする活動」の授業構成と指導案① 第5回：「絵に表す活動」の指導と評価 第6回：「絵に表す活動」の授業構成と指導案② 第7回：「立体に表す活動」の指導と評価 第8回：「立体に表す活動」の授業構成と指導案③ 第9回：「工作に表す活動」の指導と評価 第10回：「工作に表す活動」の授業構成と指導案④ 第11回：「鑑賞」の指導と評価 第12回：「鑑賞」の授業構成と指導案⑤ 第13回：情報機器の活用と模擬授業Ⅰ 第14回：模擬授業Ⅱ 第15回：図工科指導法に関するまとめと模擬授業の省察 定期試験			
テキスト： 新野貴則、福岡知子編『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む図画工作科教育法』 萌文書林			
参考書・参考資料等： 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』日本文教出版、令和6年度版『図画工作科教科書』日本文教出版			
学生に対する評価： 授業参加・授業内での提出物(60%)、模擬授業評価・定期試験またはレポート(40%)			
履修上の注意・メッセージ： 授業以外に予習や復習課題があります。また、各自で実習に必要な材料や用具を持参してもらうことがあります。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岩佐 洋子
授業科目名：家庭科指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ： 1 小学校家庭科の授業に必要な知識・技能と、教科の特性を踏まえた実践的な指導力を身に付けている。 2 教科の特性を踏まえた指導計画案作成を通して、児童主体の授業のあり方や評価の方法について考察している。			
授業の概要： 前期科目「小学課程家庭」での学びを土台にして、教科の特性をふまえた題材の指導と評価の計画案を作成する。また、グループによる検討や発表活動を通して、実践的な指導力を身に付けられるようにする。			
授業計画 第1回：家庭科の学習内容、第5・第6学年の2年間を通した指導計画案について 第2回：家庭科の学習における指導と評価について 第3回：題材の指導計画1①「A家族・家庭生活」の指導計画案作成 1) 個人案の作成 第4回：題材の指導計画1②「A家族・家庭生活」の指導計画案作成 2) グループ案の作成1 第5回：題材の指導計画1③「A家族・家庭生活」の指導計画案作成 3) グループ案の作成2 第6回：題材の指導計画1④「A家族・家庭生活」の指導計画案作成 4) 発表・協議 第7回：題材の指導計画2①「B衣食住の生活」の指導計画案作成 1) 個人案の作成 第8回：題材の指導計画2②「B衣食住の生活」の指導計画案作成 2) グループ案の作成1 第9回：題材の指導計画2③「B衣食住の生活」の指導計画案作成 3) グループ案の作成2 第10回：題材の指導計画2④「B衣食住の生活」の指導計画案作成 4) グループ案の作成3 第11回：題材の指導計画2⑤「B衣食住の生活」の指導計画案作成 5) 発表・協議 第12回：食文化に関する課題研究「年末・年始の行事食について」 レポート作成・情報交換 第13回：題材の指導計画3①「C消費生活・環境」の指導計画案作成 1) グループ案の作成 第14回：題材の指導計画3②「C消費生活・環境」の指導計画案作成 2) 発表・協議 第15回：まとめ・家庭科の学びについて			
定期試験 テキスト： 「小学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省 東京書籍 「小学校 わたしたちの家庭科 5・6」鳴海多恵子 他著 開隆堂			
参考書・参考資料等： 「中学校学習指導要領」第2章 第8節 技術・家庭 文部科学省 「高等学校学習指導要領」第2章 第9節 家庭 文部科学省			
学生に対する評価： 授業時の課題・グループ活動成果(35%)、定期試験(課題レポート)(65%)			
履修上の注意・メッセージ： この科目では、家庭科の学習を通して児童が考えを深めたり、実生活の改善・工夫ができるような指導計画案を考える機会としたい。また、家庭科では実験・実習が多く、安全・衛生等に関する指導が欠かせない。児童自らが安全・衛生等を意識して行動する力が身につけられるよう、指導計画案にも反映させて欲しい。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：海老原 修
授業科目名：体育科指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」を育むために、小学校学習指導要領・体育編に基づく児童の変容を考えるべく、具体的な指導場面を想定した体育のありかたと指導者の役割を構想する力量を身につけていく。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>小学校学習指導要領が目指す資質・能力の理解のもと、小学校体育のねらい及び内容について理解を深め、主体的で対話的な学びをうながすような、具体的な事例を通じて、まとめ、発表し、内省する資質を向上させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～授業のすすめ方・評価方法・安心安全の確保～</p> <p>第2回：小学校学習指導要領・目標「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ための実践的なプログラムとは</p> <p>第3回：小学校学習指導要領・目標「運動に親しむ資質や能力の育成」「健康の保持増進」「体力の向上」の相互に密接な関連をもつプログラムとは</p> <p>第4回：体づくり運動・器械運動①</p> <p>第5回：体づくり運動・器械運動②</p> <p>第6回：体づくり運動・器械運動③</p> <p>第7回：陸上運動系①(走の運動)</p> <p>第8回：陸上運動系②(跳の運動)</p> <p>第9回：ボール運動系①(バスケットボール・ゴール型)</p> <p>第10回：ボール運動系②(バレーボール・ラリー型)</p> <p>第11回：ボール運動系③(野球型)</p> <p>第12回：表現運動系</p> <p>第13回：集団行動</p> <p>第14回：保健領域</p> <p>第15回：水泳系・雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動などの取扱いにかんして</p>			
<p>定期試験</p> <p>テキスト：「小学校学習指導要領 体育編」解説 文部科学省</p> <p>参考書・参考資料等：笹川スポーツ財団(2023)：「子ども・青少年のスポーツライフ・データ2023」 笹川スポーツ財団(2023)：「スポーツ白書2023」</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>実践的な学習を通じた省察をうながすポートフォリオ型のレポート(70%)、定期試験(10%)、平常点(20%)など総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：特になし</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高橋 宏彰
授業科目名：数学2	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ：教員採用試験の一般教養の自然分野「数学」についての問題演習および解説を通して、問題解決能力を学び、論理的思考を身につけることを目標とする。			
授業の概要：教員採用試験の一般教養の自然分野「数学」では主に数学I・Aの内容から出題されている。教員採用試験の過去問の類題を單元ごとに演習を行い、自力で問題が解けるように実践力を高める。			
授業計画 第1回：数の計算① 第2回：式の計算① 第3回：方程式・不等式① 第4回：関数とグラフ① 第5回：平面図形・空間図形① 第6回：場合の数・確率① 第7回：総合演習①（数・式の計算、方程式・不等式、関数、図形、場合の数・確率） 第8回：数の計算② 第9回：式の計算② 第10回：方程式・不等式② 第11回：関数とグラフ② 第12回：平面図形・空間図形② 第13回：場合の数・確率② 第14回：総合演習②（数・式の計算、方程式・不等式、関数、図形、場合の数・確率） 第15回：総合演習③（数・式の計算、方程式・不等式、関数、図形、場合の数・確率）			
定期試験			
テキスト： なし（授業毎に演習プリントを配布）			
参考書・参考資料等： 「ルーズリーフ参考書高校数学I・A[改訂版]」（Gakken） 「教員採用試験 一般教養の演習問題 問題集「青の一般教養」」（時事通信社）			
学生に対する評価： 定期試験（50パーセント）、授業レポート・小テスト（50パーセント）			
履修上の注意・メッセージ： 特になし			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：香取 利彦
授業科目名：日本史2	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： 歴史の基本的な考察方法を理解するとともに、主題を設定して追求する学習や地域社会にかかわる学習などを通じて、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。			
授業の概要： 歴史学とは、「いま」の生活を起点にして過去と対話することです。自分自身の「現在」と向き合い、教科書や授業で扱われてきた歴史上の事実以外に存在する多くの事実視野をあてながら、さまざまな視点を育てていく機会を提供する。(近代・現代)			
授業計画 第1回：明治政府の成立 第2回：民権と国権 第3回：憲政と議会 第4回：日露戦争 第5回：世界大戦 第6回：関東大震災 第7回：政党の政治 第8回：満州事変 第9回：内政・外交の変質 第10回：日中戦争 第11回：太平洋戦争 第12回：占領と講和 第13回：国際社会への復帰と戦後処理 第14回：「経済大国」日本の模索 第15回：冷戦後の日本 定期試験			
テキスト： 木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治編『大学で学ぶ日本の歴史』（吉川弘文堂）			
参考書・参考資料等： 詳説日本史図録編集委員会編『詳説日本史図録』（山川出版社）			
学生に対する評価： 定期試験：50% 授業時の小課題：50%			
履修上の注意・メッセージ： 特になし			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：川瀬 一弥
授業科目名：政治・経済概論	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：ともすれば一般人にとって、日々の生活と隔絶した感覚で語られがちな政治や経済分野の話題ではあるが、実際には私たちにつかず離れず存在していて、私たち自身の生き方が問われる領域でさえある。よって、教育者個々にとっては当たり障りなくおざなりに扱うことは許されず、単なる利益不利益 や効率性の観点からのみ政治や経済を考えることの危うさや無意味さに気づくとともに、その重要性や熟知することの必要性を改めて理解することを目標としたい。</p>			
<p>授業の概要：身近な問題が政治的そして経済的にどのような関りを持ち、どのような政治的または経済的な解 決策が考えられるか、インタラクティブな質疑応答を通じて考察を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 政治とは何？</p> <p>第2回：日本の政治（1）日本国憲法から国会を考える</p> <p>第3回：日本の政治（2）日本国憲法から内閣を考える</p> <p>第4回：日本の政治（3）憲法規定と政治実態 69条と7条、最高裁判事の国民審査</p> <p>第5回：世論の形成と政治（1）マスメディアの関り</p> <p>第6回：世論の形成と政治（2）新しい政治参加の方法</p> <p>第7回：アメリカの政治 大統領選挙を中心に</p> <p>第8回：イギリスの政治 議会制民主主義の目指すもの</p> <p>第9回：経済とは何？</p> <p>第10回：市場経済の特徴</p> <p>第11回：働くことと貧困と</p> <p>第12回：エネルギーと地球環境</p> <p>第13回：グローバリズム（1）貿易のあり方を考える</p> <p>第14回：グローバリズム（2）世界をめぐるお金</p> <p>第15回：地域経済統合と新興国の台頭</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：「民主主義」文部省（角川ソフィア文庫）</p> <p>「大学4年間の経済学を10時間できくと学べる」井堀利宏（角川文庫）</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業中に指示、紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業ごとの振り返り（質問用紙の提出40%）、定期試験（60%）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：生きていくうえで重要であろう政治と経済に関する知識が、実践知として多くの 人々に共有されるようになるためには、やはり教育の現場で、常に問題意識を持ちながら政治と経済を語る 人材が必要であろう。政治的中立性や公益優先の社会創造の理想を否定するものではないが、我々生身の人間 が生きている社会は常に流動的であり、格差もあり、試行錯誤の末に傷つきもがきながらそれぞれが幸せを追い求めている現実があることの矛盾も、この授業の中で考えてほしい。</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山本 卓也
授業科目名：自然科学	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>本講座では、自然科学史を概観し、科学に対する苦手意識をなくし、科学的なものの考え方を修得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>自然科学（天文学・地学・生物学・化学・物理学・数学）について高校～大学レベルの内容を、自然科学を応用した身の回りにあるものなどの具体的事例を挙げながら学んでいく。</p>			
<p>第1回：自然科学の見方考え方</p> <p>第2回：天文学からはじめよう：天文学と宇宙観</p> <p>第3回：現在の地球</p> <p>第4回：地球史の科学</p> <p>第5回：生命の科学（1）生物の多様性</p> <p>第6回：生命の科学（2）生物間の関係性</p> <p>第7回：生命の科学（3）分子からなる生物</p> <p>第8回：物質の科学（1）化学（原子、分子、化合物）</p> <p>第9回：物質の科学（2）化学（化学エネルギー）</p> <p>第10回：物質の科学（3）物理学の視点</p> <p>第11回：物質の科学（4）量子の世界</p> <p>第12回：数学（1）数学の言葉と論理</p> <p>第13回：数学（2）数学の基本思考</p> <p>第14回：自然科学と数学</p> <p>第15回：自然科学との向き合い方について</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「自然科学はじめの一步」岸根 順一郎・大森 聡一 著（放送大学教材）</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業に使用する資料は適宜配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験（70％）、授業ごとの課題（30％）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>理科（自然科学）が最も子どもが興味を示す科目だと思います。それを教える教員がまず興味をもち、また子供たちにわかりやすく説明できるようになるために、しっかりと学ぶこと。</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高山 英己
授業科目名：物理学	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： <ul style="list-style-type: none"> ・力学、熱力学、電磁気学、波動、現代物理学などの基本的な物理学の概念を理解する。 ・基本的な物理の公式を使って、簡単な計算問題を解けるようにする。 ・物理の原理が日常生活でどのように使われているかを理解し、例を挙げられるようにする。 			
授業の概要： 授業は講義形式で行い、基本的な物理学の概念を理解する。また、各授業で演習問題に取り組む。受講人数等により、授業内容・教材を変更する場合がある。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、力学①（速さ、速度、変位） 第2回：力学②（加速、等加速度運動） 第3回：力学③（落下運動） 第4回：力学④（力、力の合成・分解） 第5回：力学⑤（運動の3法則） 第6回：力学⑥（仕事とエネルギー） 第7回：力学⑤（力学的エネルギー保存） 第8回：熱力学（熱と温度、熱量保存の法則） 第9回：波動①（波の表し方と要素、波の合成・反射） 第10回：波動②（音、弦の振動、気柱の振動） 第11回：電磁気学①（静電気） 第12回：電磁気学②（オームの法則、電力） 第13回：電磁気学③（磁場と電流） 第14回：電磁気学④（電磁誘導） 第15回：現代物理学 定期試験			
テキスト：「高校物理基礎をひとつひとつわかりやすく。改訂版」 長谷川大和・徳永恵理子・武捨賢太郎（Gakken）			
参考書・参考資料等： <ul style="list-style-type: none"> ・「身のまわりの仕組みがわかる 物理について大島まり先生に聞いてみた」 大島まり（Gakken） ・「ニュートン超図解新書 最強に面白い 物理」 和田純夫（ニュートンプレス） 			
学生に対する評価： 授業における演習・提出物（50%）、定期試験（50%）			
履修上の注意・メッセージ： 物理が難しいと感じている人もいるかもしれませんが、物理学は実は私たちの日常生活と深く結びついています。この授業では、難しい数式や理論だけでなく、身の回りの現象を楽しく学びながら、物理の基礎を理解していきます。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名： KIEFER ADAM RILEY
授業科目名： 英語 2	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態： 単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： 1. 学生の英語に対する理解を深め、実践的な英語運用能力を向上させる。 2. 小学校でどのように英語を教えることができるかについて考える機会を提供する。			
授業の概要： 本授業では、基本的な文法の学習や会話の聞き取りと分析、実際のコミュニケーションを模した活動を通して、学生の英語に対する理解と実践的な運用能力を向上させることを目指します。また、小学校で効果的に英語を教える方法について考察し、授業アイデアや子どもたちを引きつける指導法を探求します。ディスカッションや実践的な活動、指導案の作成を通じて、英語力を高めるとともに、小学校教育現場での英語指導の実践的な理解を深めます。			
授業計画 第1回:コースガイダンス・自己紹介・目標設定 第2回:Be 動詞: Talking about people: Is this your wife? 第3回:形容詞と強調副詞 It's Really Hot! 第4回:現在進行形: What is he doing? 第5回:現在形: My Routine / How often do you...? 第6回:過去形: I Went to Singapore. 第7回:プロジェクト第1 準備 第8回:プロジェクト第1 発表 第9回:前置詞 1: I'm Still at the Office. 第10回:前置詞 2 Let's Meet at Shinjuku Station. 第11回:未来形: Is it Going to Be Hot Tomorrow? 第12回:命令形: I Can't read the Instructions. 第13回: プロジェクト第2 準備 第14回:プロジェクト第2 発表 第15回:コース総復習 - これまでに学習した文法、語彙、主要なポイントを振り返り、理解を深める。 定期試験			
テキスト： 教師が提供する教材			
参考書・参考資料等： 授業中に指示する			
学生に対する評価： プロジェクト(40%)、ワークシート(20%)、試験(40%)			
履修上の注意・メッセージ： 積極的に授業に参加し、お互いに支え合いながら学習を進めましょう。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安富 直樹
授業科目名：ICT活用演習2	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： 教員として、ICT活用に対する幅広い教養を深め、「ICT情報主任」として現場で活躍することを目指す。子どもたちが情報活用能力を育むための授業力を身に付け、学習環境を整えられることを目標とする。			
授業の概要： GIGAスクール構想により導入された一人1台の情報端末等を利活用し、いかにして日々の授業の中にICT機器を取り入れた授業に取り組んでいくのか等、授業をデザインする。 なお、受講者自身が各種ICT機器を活用し、各教科等での具体的な利用事例を参考にした、実感的な分かり方を意図した模擬授業を想定し、課題解決を行いながら、積極的に取り組んでいく。			
授業計画 第1回：GIGAスクール構想と学校の情報化 ■積極的活用で、アウトプットの質と量を高める。 第2回：国語におけるICT活用 ■録画機能を活用し、スピーチをよりよいものにする。 第3回：算数、数学におけるICT活用 ■図形などの変化の様子を可視化し、繰り返し試行錯誤する。 第4回：社会、地理歴史、公民におけるICT活用 ■国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして、深く分析する。 第5回：理科におけるICT活用 ■観察、実験を行い、動画等を使ってより深く分析・考察する。 第6回：音楽、図画工作、美術、工芸、書道におけるICT活用 ■表現の可能性を広げたり、鑑賞を深めたりする。 第7回：家庭、技術・家庭におけるICT活用 ■アイデアを可視化したり、実習を伴った活動等を振り返ったりすることで、問題解決を充実する。 第8回：生活科、総合的な学習(探究)の時間におけるICT活用 ■振り返りや表現に活用し、活動への意欲を高める(生活科)。情報の収集・整理・発信による探究の質的向上を図る(総合)。 第9回：体育、保健体育におけるICT活用 ■記録をデータ管理し、運動への意欲をもち、新たな課題設定に役立てる。 第10回：外国語におけるICT活用 ■海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、発信力を高める。 第11回：特別の教科 道徳におけるICT活用 ■道徳性を養うための学習活動における効果的な活用法 第12回：特別活動におけるICT活用 ■集団や自己の生活上の課題を解決する(学級活動)。 第13回：特別支援教育におけるICT活用 ■教科指導の効果を高めたり、情報活用能力育成を図ったりするためのICT活用を目指す。 第14回：プログラミング的思考を育むアンプラグド・コンピューティング授業デザインへの挑戦 第15回：学校図書館教育の実際、生成AIを利活用した授業デザインへの挑戦 定期試験			
テキスト：私たちと情報 探究 情報社会探究編 学研 2021 わたしたちとじょうほう 情報活用スキル編 学研 2021 2025 事例でわかる情報モラル&セキュリティ 実教出版 2025			
参考書・参考資料等 令和元年12月「教育の情報化に関する手引き」 文部科学省 令和2年6月「教育の情報化に関する手引き(追補版)」 文部科学省 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画 文部科学省 民間企業等によるICTの効果的な活用に関する参考資料 文部科学省			
学生に対する評価： 授業内での提出物・発表等(50%) 定期試験またはレポート(50%)			
履修上の注意・メッセージ： 毎時間コンピュータを活用し、全国の授業実践例を調べ、その授業分析をする。また資料をPDFに変換したり、デジタル冊子にしたりしながら、自分の「ICT活用授業事例集」を作成していくような取組を行う。 ICTを積極的に活用した授業実践研究に特化した内容となるため、情報機器の操作に困難はなく、学校現場では「ICT情報主任」として、他の先生方にデジタル機器の使い方を教えたり、校内のデジタル環境を整えたりする情報教育実践者の育成を目的としている。15回すべての出席を目指してほしい。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：冢田 三枝子
授業科目名：特別支援教育演習	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自閉症を中心に子どもの特性を理解し、指導方法の工夫について考えている。 2 自立活動について理解し、実態に応じた計画を立てられる。 3 自己理解の大切さについて考察している。 			
<p>授業の概要：自閉症教育の歴史や自立活動の変遷を学び、実態を踏まえた自立活動のねらいから具体的な指導方法や教材をグループや全体で検討できる。また、本人の気持ちを大切にした指導の大切さについて理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・支援の必要な児童生徒の現状</p> <p>第2回：自閉症教育についての歴史</p> <p>第3回：医学的な理解</p> <p>第4回：特性とその教育的対応 社会性に関する課題</p> <p>第5回：特性とその教育的対応 コミュニケーション</p> <p>第6回：特性とその教育的対応 こだわりや常同性</p> <p>第7回：特性とその教育的対応 感覚過敏</p> <p>第8回：自立活動の変遷</p> <p>第9回：自立活動6区分27項目①(前半)</p> <p>第10回：自立活動6区分27項目②(後半)</p> <p>第11回：自立活動を踏まえたねらいの立て方</p> <p>第12回：自立活動から指導の考え方</p> <p>第13回：ケース会議を開く① 事例A</p> <p>第14回：ケース会議を開く② 事例B</p> <p>第15回：学級経営と特別支援教育</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」文部科学省 「本人参加型ケース会議」 明治図書</p>			
<p>参考書・参考資料等：特になし</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験(50%)、レポート・講義への参加(30%)、課題発表(20%)により総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>教育実習やボランティア等での経験と重ねて考えられるようにすること。</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岡野 友美子
授業科目名：体育ダンス	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ： 表現運動を中心に、情緒豊かな表現力や創造性を高め、動きからなる表現体の体得と知識を習得する。最終的には教育の一内容として役立つグループ作品の創作・発表を目指す。</p>			
<p>授業の概要： 小学校学習指導要領に記されている知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視し、豊かな心や健やかな体を育成するため、具体的に実践して十分に体を動かし体力・運動能力の向上とともに充実感や満足感味わうことで指導者としての資質を高め、「生きる力」を理解し、教育者として必要な能力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：リズム運動① (有酸素運動の意義)</p> <p>第2回：リズム運動② (ウォーミングアップについて)</p> <p>第3回：リズム運動③ (有酸素運動の効果について)</p> <p>第4回：リズム運動④ (有酸素運動の特性について)</p> <p>第5回：リズム運動⑤ (有酸素運動の呼吸法について)</p> <p>第6回：リズム運動⑥ (有酸素運動の安全性について)</p> <p>第7回：リズム運動⑦ (有酸素運動の総復習・まとめ)</p> <p>第8回：動きの基本① (身体の部位について)</p> <p>第9回：動きの開発② (身体運動の種類について)</p> <p>第10回：動きの開発③ (身体運動の成立要因について)</p> <p>第11回：動きの変化と工夫④ (組み合わせや隊形について)</p> <p>第12回：表現運動グループ創作① (表現的な遊びについて)</p> <p>第13回：表現運動グループ創作② (表現的な遊びの実践)</p> <p>第14回：表現運動グループ創作③ (表現的な遊びの復習)</p> <p>第15回：表現運動グループ創作④ (創作発表会)</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：『からだと遊び』 畠山トミ 学術図書出版社 『明日からトライ！ダンスの授業』 全国ダンス・表現運動授業研究会</p>			
<p>参考書・参考資料等： 小学校学習指導要領 文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価： 実技試験(70%)を中心に、課題・レポート・演習授業(30%)の総合判定</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：教員らしく運動のできる、動きやすい服装が好ましい。 実技の授業は毎回新しいことに取り組んだり、グループ創作したり活動的です。欠席が多いとついていけなくなりますので気を付けましょう。</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：ピアノ担当教員
授業科目名：ピアノ I	必修選択	2単位 (60時間)	担当形態：複数 / 実技
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：小学校教諭として必要とされる簡易伴奏法や新曲視奏を学ぶ。同時にピアノ演奏技能を個々の能力に応じてブルグミュラー25の練習曲・同程度の曲々を用いてさらに高め、現場で必要とされる歌唱共通教材や子供の歌の弾き歌いにも慣れ親しむ。</p>			
<p>授業の概要：個人レッスン形式で授業をおこない、子供のための音楽活動に必要な技術として、ピアノ演奏のさらなる上達を目指す。また、子供たちが音楽を通じて、感受性と表現力が高められるような教育方法を学ぶ。具体的履修内容（レベル11～20）は別表（*初回授業で配付）で表す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>学生のレベルに合わせたピアノ演奏に関する個別指導を行う。</p> <p>第1回：</p> <p>第2回：</p> <p>第3回：</p> <p>第4回：</p> <p>第5回：</p> <p>第6回：</p> <p>第7回：</p> <p>第8回：</p> <p>第9回：</p> <p>第10回：</p> <p>第11回：</p> <p>第12回：</p> <p>第13回：</p> <p>第14回：</p> <p>第15回：</p> <p>グレード試験</p>	<p>第16回：</p> <p>第17回：</p> <p>第18回：</p> <p>第19回：</p> <p>第20回：</p> <p>第21回：</p> <p>第22回：</p> <p>第23回：</p> <p>第24回：</p> <p>第25回：</p> <p>第26回：</p> <p>第27回：</p> <p>第28回：</p> <p>第29回：</p> <p>第30回：</p> <p>定期試験</p>		
<p>テキスト：「ブルグミュラー 25の練習曲」北村智恵校訂（全音楽譜出版社）</p> <p>「ギロック こどものためのアルバム」日下部憲夫編（全音楽譜出版社）</p> <p>『改訂版 最新 初等科音楽教育法2017年公示「小学校学習指導要領」準拠』</p> <p>初等科音楽教育研究会編（音楽之友社）</p>			
<p>参考書・参考資料等：小学生音楽、子供とたのしむ童謡カレンダーVol. 1, Vol. 2</p>			
<p>学生に対する評価：課題曲によるグレード試験(20%)、課題曲による定期試験(60%)、平常点(20%)により評価する。尚、定期試験受験資格はレベル20までの修了を条件とする。通年科目のため前期、後期いずれか15回のうち3分の1以上欠席した場合、各試験の受験資格を喪失します。またグレード試験を受験していない学生は定期試験の受験資格を喪失します。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：教師になる自覚を持ち、意欲的に学ぶことを求めます。ピアノ演奏技能は、課題をこなすことによって確実に実力が身につきます。日々の練習を大切にしてください。</p>			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名： 田中 正雄
授業科目名： 器楽合奏	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態： 単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： 小学校教諭として必要な器楽の演奏技能、表現力を習得するとともに、器楽合奏指導との関連を考えながら実践に生かせるようにする。			
授業の概要： 実践に相応しい器楽合奏表現を学ぶとともに、児童が他者と音を合わせて演奏する喜び、表現する喜びを感じられるような指導法を探る。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、小学校学習指導要領の器楽分野の理解、読譜の復習 第2回：ソプラノリコーダーの奏法①（ソラシまで）、指揮法①（叩き、しゃくい、平均運動） 第3回：ソプラノリコーダーの奏法②（幅広い音域を使った独奏曲）、指揮法②（様々な拍子） 第4回：ソプラノリコーダーの奏法③（リコーダー二重奏）、指揮法③（合唱、合奏の指揮） 第5回：ソプラノリコーダーの奏法④（まとめ、二重奏発表）、指揮法④（変拍子を含む） 第6回：ラテン打楽器の奏法（キューバの打楽器）① - マンボ、チャチャチャー 第7回：ラテン打楽器の奏法（キューバの打楽器）② - 「マンボNo.5」の演奏- 第8回：ラテン打楽器の奏法（ブラジルの打楽器）① - サンバ、ボサノヴァー 第9回：ラテン打楽器の奏法（ブラジルの打楽器）② - 「風になりたい」の演奏- 第10回：様々な楽器を用いた器楽合奏① - 低・中学年の教材を中心に- 第11回：様々な楽器を用いた器楽合奏② - 高学年の教材を中心に- 第12回：グループによる器楽合奏①（各自テーマを決めて選曲、練習） 第13回：グループによる器楽合奏②（グループのテーマにしたがって練習を進める） 第14回：グループによる器楽合奏③（グループのテーマにしたがって練習を深める） 第15回：グループによる器楽合奏発表会 定期試験 ※授業内で使用するソプラノリコーダーを授業までに各自準備のこと。			
テキスト：改訂版 最新 初等科音楽教育法2017年告示「小学校学習指導要領」準拠（音楽之友社） 担当教員の作成した資料、楽譜			
参考書・参考資料等：「小学校学習指導要領解説 音楽編」文部科学省（教育出版）			
学生に対する評価： 演奏発表50%、授業への取り組み30%、レポートによる定期試験20% 授業初回からの各自の努力、上達度、グループ学習における協調性を重視し総合的に評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 人には必ず一つは自分に向いている楽器があるそうです。様々な楽器体験の中で生涯共にできる楽器との出会いがあることを期待しています。			

児童科初等課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：酒井修子、田中正雄、他
授業科目名：教育インターンシップ2	自由選択	4単位(160時間)	担当形態：複数 / 実技
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：学校現場における様々な職務内容に触れ、教職の補助的体験を通して、実習等で得られた教員に求められる知識や技能に対する理解を深めるとともに、実践的指導力のさらなる向上をはかる。</p>			
<p>授業の概要：教育インターンシップ2では、以下のような内容が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 週1～2回、各4～8時間程度学校現場等に通い、授業補助や教科外の様々な活動を通して児童と直接関わり、学校の教育活動について理解を深める。 2. 本校が用意した短期留学プログラムに参加し、様々な教育現場の実情を観察するとともに、これからの教育について自身の考えをまとめることができる。 <p>終了時に実践とリフレクションの内容をまとめ、報告会にて発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、インターンシップの進め方についてのガイダンス</p> <p>第2回～第14回 研修場所でのインターンシップ実践①（学校での授業観察、教育活動体験、学校行事ボランティア活動等）とリフレクション</p> <p>第15回：インターンシップ中間報告会</p> <p>第16回～第29回 研修場所でのインターンシップ実践②（学校での授業観察、教育活動体験、学校行事ボランティア活動等）とリフレクション</p> <p>第30回：インターンシップ最終報告会</p>			
テキスト：特になし			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業の中で適宜配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：ガイダンスおよび報告会（30%）、活動の記録（50%）、レポート（20%）</p> <p>なお、終了時に240時間の活動を証明する書類を提出すること。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>履修にあたっては、事前に活動計画書を作成の上、担当教員と面談を行う。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：野下 卓泰
授業科目名：体育理論	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
科目に含めることが必要な事項	体育		
<p>授業の到達目標及びテーマ： 健康の保持増進に身体活動が果たす役割は極めて大きい。そのため本講義では、健康と身体活動との関連について理解すると共に、身近なテーマを題材としてその実態と現代的健康課題について学ぶ。また、子ども及び自らの健康実態を知り、生涯を通じた心身共に健康の保持増進に必要な具体的方策を立てる能力を養うことも目指す。</p>			
<p>授業の概要： 健康、体力に関する概念を把握し、生涯に渡って自ら健康寿命の延伸に寄与する取り組みが行えるための「最新のスポーツ科学の知見」について理解を深める。 ☆課題に対するフィードバックの方法 ◎学生から寄せられた質問や感想等は、必要に応じて授業中に全学生に対しその内容を伝え解説を加える等の対応を行っている。 ◎授業内課題およびレポート等は、翌週以降にコメントを付けて返却する。</p>			
<p>第1回：オリエンテーション 授業概要について 第2回：健康とは？ 第3回：スポーツとは？ 第4回：スポーツマンシップとは？ 第5回：脳科学的根拠を基に子どもとの関わりを考える 第6回：幼少期の身体の発達 第7回：幼少期の運動遊び・スポーツとその指導 第8回：運動遊び・体育指導の基本と実際 第9回：子どもの体力低下について 第10回：スポーツにおけるモチベーション（動機づけについて） 第11回：運動のメカニズム 第12回：スポーツ場面での怪我や病気 第13回：スポーツにおける応急処置、心肺蘇生法の基礎知識 第14回：スポーツと保護者 第15回：これからのスポーツ・体育について</p> <p>定期試験</p>			
テキスト：随時パワーポイントで資料を配布する。			
参考書・参考資料等：◎スポーツマンシップバイブル 中村聡宏著 東洋館出版社			
<p>学生に対する評価： ①授業取り組み（各回課題の内容・ポイントを理解し取り組んでいるか）20% ②グループ課題（授業のテーマについて、グループごとに発表を行う）30% ③定期試験50%（日頃から【子ども・健康・教育・スポーツ全般・福祉】等をキーワードに、新聞・雑誌&インターネット等を利用し情報収集を行い、自身の身の回りの状況に目を向ける習慣を身に付けることが望ましい。）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ： 体育やスポーツについて、皆さんとともに深めていけたらと考えています。卒業するための学びだけでなく、一生涯活かせる学びをしていきましょう！皆さんとお会いできることを楽しみにしています。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：野下 卓泰
授業科目名：体育実技	必修	1単位(30時間)	担当形態：単独 / 実技
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
科目に含めることが必要な事項	体育		
<p>授業の到達目標及びテーマ： 運動やスポーツを通して自己の心身について認識し、またお互いを認め合いコミュニケーションスキルを高め合いながら、心もからだも良い状態に維持・向上させる習慣を身に付けることができる。また、生涯スポーツのきっかけとして「運動は楽しい」という感度を味わうことができる。</p>			
<p>授業の概要： ・自分の体力を把握すると共に、身近にある様々な用具を使い、グループワークやディスカッションを取り入れてスポーツを楽しみ、学生自らが基礎体力を養える援助を行う。 ・実技と並行し、アクティブ・ラーニングの取り組みとして google classroom を利用し、学生各自で作成した運動プログラムを日々実践し、週単位で振り返り自己評価を行う。まとめとしてこれらを資料とし、科学的根拠を基に振り返り、これからの人生における運動やスポーツとの関わりについて、レポートとしてまとめていけるよう働きかける。 ☆課題に対するフィードバックの方法 ◎学生から寄せられた質問や感想等は、必要に応じて授業中に全学生に対しその内容を伝え解説を加える等の対応を行っている。 ◎授業内課題およびレポート等は、翌週以降にコメントを付けて返却する。</p>			
<p>第1回：オリエンテーション 授業概要・評価方法・日々の身体活動について 第2回：鬼遊び① 運動特性の理解 第3回：ベースボール型ゲーム① ゲーム特性の理解 第4回：ベースボール型ゲーム② ゲーム実践 第5回：陸上運動① 運動特性の理解 第6回：ゴール型ゲーム① ゲーム特性の理解（フラッグフットボール） 第7回：ゴール型ゲーム② ゲーム実践（フラッグフットボール） 第8回：ゴール型ゲーム③ ゲーム特性の理解（パスゴールゲーム） 第9回：器械運動① 運動特性の理解 第10回：器械運動② 運動実践 第11回：器械運動③ 機能的特性をどう作るか？ 第12回：ネット型ゲーム① ゲーム特性の理解（フロアボール、プレルボール） 第13回：ネット型ゲーム② ゲーム特性の理解（バレーボール） 第14回：ネット型ゲーム③ ゲーム実践 第15回：ターゲット型ゲーム① ゲーム特性の理解</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト：随時パワーポイントで資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：◎スポーツマンシップバイブル 中村聡宏著 東洋館出版社</p>			
<p>学生に対する評価： ①毎回の授業（各自が到達目標・各回のポイントを意識し取り組んでいるか：授業に臨む準備が良好であるか・コミュニケーションを取りながら行われているか等）60% ②毎回の授業の振り返りレポート 20% ③最終レポート試験（題目「身体活動を通じた自らの心身の変化を科学的根拠を基に分析し、人生を豊かになるための今後の身体活動との関わりを考察する」）20% ※服装はスポーツウェア、靴は運動靴に限定し、それ以外の着用は安全上の観点から参加は認められない。※※授業前は十分な睡眠と適切な食事をとり、体調管理に務めること。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ： 体育やスポーツについて、皆さんとともに深めていけたらと考えています。卒業するための学びだけでなく、一生涯活かせる学びをしていきましょう！皆さんとお会いできることを楽しみにしています。 ※服装はスポーツウェア、靴は運動靴に限定し、それ以外の着用は安全上の観点から参加は認められない。授業前は十分な睡眠と適切な食事をとり、体調管理に務めること。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：冢田 三枝子
授業科目名：特別支援教育総論	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>①特別支援教育の基本的な考え方を理解し、他者に説明することができる。</p> <p>②特別支援教育の仕組みとその実際、幼稚園や保育所にも在籍する発達障害をはじめとする障害のある子どもの特性と教育の実際について述べることができる。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>特別支援教育の基本的な考え方、幼児期における特別支援教育、障害のある子どもの理解と支援の方法等について、講義・演習等を通して具体的に考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 障害のある幼児の保育を支える理念と展開</p> <p>第2回：知的障害児の理解と支援</p> <p>第3回：肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援</p> <p>第4回：視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援</p> <p>第5回：言語障害・場面緘黙の子どもの理解と支援</p> <p>第6回：発達障害児の理解と支援（ASD 情緒面の課題）</p> <p>第7回：発達障害児の理解と支援（ADHD・SLD）</p> <p>第8回：虐待・貧困等 生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助</p> <p>第9回：子ども同士のかかわりあいと育ちあい</p> <p>第10回：個々に応じた指導・支援と個別の指導計画</p> <p>第11回：保護者や家族に対する理解と支援</p> <p>第12回：関係機関との連携・協働</p> <p>第13回：小学校への接続と連携</p> <p>第14回：障害児保育の現状と課題</p> <p>第15回：「障害児保育」のまとめ ～共生社会の担い手として～</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「障害児保育演習ブック」松本峰雄 監修 増南太志 編著 ミネルヴァ書房</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>「保育所保育指針」厚生労働省、「幼稚園教育要領」文部科学省、その他、必要に応じて指示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験（50%）、レポート・講義への参加（30%）、課題発表（20%）により総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>特になし</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安藤 壽子
授業科目名：教育心理学	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ：教育心理学の基本的知見を発達段階に即して理解し、学校教育・家庭教育の中でどのように生かされているのか、具体的な事例を通して検討し、教育現場で発揮できる実践力を身につける。</p>			
<p>授業の概要：前時に提示された課題（指定されたテキストの項目を読む）を事前学習した上で授業に参加する。該当の事例をもとにグループワーク等による議論を通し、理論と実践を往還しながら課題解決の方法を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：教育に関する興味関心を明示し、各自の課題を持つ</p> <p>第2回：発達理論1：遊びと学び、ムーブメント教育、ピアジェの発達段階理論</p> <p>第3回：発達理論2：条件づけ、行動変容理論、モデリング、発達の最近接領域等</p> <p>第4回：学習理論1：認知発達、注意・記憶、WISCによるアセスメント、動機づけ</p> <p>第5回：学習理論2：言語発達（絵画語彙発達検査）</p> <p>第6回：学習理論3：視知覚発達（フロスティック視知覚発達検査）</p> <p>第7回：学習理論4：読み書きスキルの発達（読み書き困難児のための音読・音韻スクリーニング検査）</p> <p>第8回：学習理論5：自己調整学習と教科学習</p> <p>第9回：人格形成：思春期の課題、ライフスキル、社会性</p> <p>第10回：認知心理学：実行機能、メタ認知</p> <p>第11回：社会性の発達：自己理解、自己実現、アイデンティティの確立</p> <p>第12回：学校心理学：個と集団の関係（QU）</p> <p>第13回：現代の課題：学校不適應、いじめ、不登校、ひきこもり、依存、自己有能感</p> <p>第14回：キャリア教育：社会化、自立、SST</p> <p>第15回：特別支援教育：理念と仕組み、インクルーシブ教育、合理的配慮等</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「親子バトル解決ハンドブック」安藤壽子・安藤正紀編著、図書文化</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>ワークシート配布</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験（60％）、課題・発表（40％）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>教育現場で役立つ実践力を身につけることを目指し、主体的に学修しましょう。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安富 直樹
授業科目名：ICT活用の理論と実践	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 演習
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： コンピュータ・タブレット・スマートフォン等のICT機器を活用した授業設計・評価の理論を、具体的な教科におけるGIGAスクール構想対応型の授業設計・授業改善に生かせる力を修得する。 また、情報モラル教育、プログラミング教育を含む情報教育の目標、教育内容、教材について理解し、具体的な学校環境において情報環境整備を含め対応できる力を育成する。 〈到達目標〉 ・情報活用能力を育成する授業を設計・実施・評価・改善できる。 ・目標実現に最適な情報を収集・選択したり、適宜情報機器を利活用したりした授業を設計・評価できる。			
授業の概要： これまでの教育現場における情報通信技術（ICT）の活用について、歴史的経緯や現状を概観し、生成AIを含めた情報デジタルリテラシーを考えていく。教科等の指導におけるICT活用授業の理論やその実践を、文献や授業ビデオ等を参照しながら、授業設計（授業準備・データ活用・学習評価）の構成要素および具体的な指導法を身に付けていく。また情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、情報モラル教育、プログラミング教育、データサイエンス等について、一人1台端末を授業にどう位置付け具体的にどう取り入れるかを検討しながら、教材開発も行っていく。なお、受講者自身が各種ICT機器を活用し、体験的に学ぶ機会を積極的に設けていく。			
授業計画 第1回：平成・令和のICT教育概観 生成AI利用の広がり 「遊び」で思考力を鍛える 第2回：日々の情報利活用と増え続ける情報 収集・選択・加工・発信とICT 第3回：教育の情報化の概要① デジタルコンテンツの導入と教師のICT指導力 第4回：教育の情報化の概要② 対話的な学びを深めるICT活用力 第5回：教育の情報化の概要③ 学習指導要領「生きる力」と「資質・能力」とICT活用力 第6回：GIGAスクール構想とSociety 5.0 「情報活用能力の育成」を新聞作りから学ぶ 第7回：授業支援システムでの展開 授業づくりと実践事例の分析 ① 第8回：アクティブ・ラーニングでの展開 授業づくりと実践事例の分析 ② 第9回：デジタル・ポートフォリオへの展開 授業づくりと実践事例の分析 ③ 第10回：電子黒板とデジタル教科書への展開 授業づくりと実践事例の分析 ④ 第11回：プログラミング的思考を育む教育の実践とそのめざすもの 園児の思考力を育むアンプラグド・コンピューティング 第12回：「情報モラル教育」から「デジタル・シティズンシップ」へ 第13回：学校現場で活用が進む生成AIと成長支援 第14回：ICTを取り入れた活動案づくり 思考スキル・思考ツールの活用 第15回：学校教育とテクノロジー これからの成長支援			
定期試験 テキスト：小原 豊・北島茂樹 編著 2024 『未来を拓くICT教育の理論と実践』 東洋館出版社 「小学校学習指導要領解説 総則編」（文部科学省） 授業時に配付するプリント			
参考書・参考資料等： 坂本 旬 他 2020 デジタル・シティズンシップ:コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び 大月書店 平成22年10月、令和元年12月「教育の情報化に関する手引き」 文部科学省 令和2年6月「教育の情報化に関する手引き（追補版）」 文部科学省 学習指導要領の趣旨の実現に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する 参考資料（令和3年3月版） 初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン Ver.2（令和6年12月版）			
学生に対する評価： 定期試験（70%）、授業中に課すレポートや課題作品等の評価（30%）の総合判定で評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 授業の中では、コンピュータを利活用しながら取り組むため、忘れずに持参すること。 また、毎回「振り返りレポート」を提出すること。なお、欠席時もレジュメ（配付される講義内容を要約した資料）を参照し、「今日の学び」に記入し、提出すること。配付資料は、ファイリングし、参照できるようにしておくこと。詳しくは、最初の授業で説明する。			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名： 渡邊 志津子
授業科目名： 幼児理解論	必修	2単位 (30時間)	担当形態： 単独 / 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	幼児理解の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>保育における探究の必要性を理解し、子どもを理解するための基本的な考え方、生活や遊び、保育環境、個と集団の育ちなど多様な視点から子どもを理解する方法及び、子どもと保育者の協働探究としての援助や支援の具体的な在り方を理解する。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>子ども理解のために不可欠な理論について、映像教材や実践事例を通して理解をはかり、保育者の専門性の根幹となる「子どもを理解しようとする視点やまなざし」と「“聴く”保育」について理解を深める。また、記録を活用した保育について考察を進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保育における探究の必要性と子ども理解の意義（子どもの遊ぶ権利、学ぶ権利の保障）</p> <p>第2回：指針・要領にみる子ども理解の基本</p> <p>第3回：子どもの探究と保育者の探究</p> <p>第4回：保育における子どもの生活と遊びの実際（日本型プロジェクト保育）</p> <p>第5回：探究の物語の実際（保育環境と展開に着目して）</p> <p>第6回：探究の物語の実際（子ども同士の関わり方と関係づくりに着目して）</p> <p>第7回：探究の物語の実際（個のよさを認め合う集団へ）</p> <p>第8回：探究の物語の実際（子どもの葛藤とつまずきに寄り添う）</p> <p>第9回：探究の物語の実際（保育者の言葉かけや共感に着目して）</p> <p>第10回：探究へと進む保育の条件とドキュメンテーション</p> <p>第11回：家庭・地域との連携</p> <p>第12回：探究活動への可能性の試みと企画</p> <p>第13回：探究活動への挑戦「聴き合う・問い直す」</p> <p>第14回：探究活動の設定と実践</p> <p>第15回：「子ども理解」を深めるための保育共同体の構築</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：「遊び・学びを深める日本のプロジェクト保育～協働研究への誘い」秋田喜代美、松本理好寿輝監著(中央法規)</p>			
<p>参考書・参考資料等：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と各解説書</p>			
<p>学生に対する評価：授業課題への取り組み(70%)、定期試験(30%)</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>1年生で学んだことを基礎にして、更に学びを深めていきます。写真や動画などの具体的な事例に触れることで保育の場に行くのが楽しみになると思います。保育の醍醐味を一緒に味わっていきましょう。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名： 福島 洋子
授業科目名： 幼児教育相談	必修	2単位 (30時間)	担当形態： 単独 / 演習
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： 乳幼児期の発達を考慮しながら、個々の心理的特質や課題を適切に捉え、幼児教育相談をすすめ、支援を行うのに必要な基本的知識や技法を学ぶ			
授業の概要： 保育園や幼稚園における教育相談の意義と理論、乳幼児と家族とのかかわり、親子の発達と適応を支援する。幼児教育相談を進める際に必要な理論や基礎知識とその具体的な進め方やポイントの理解を深める			
授業計画 第1回：オリエンテーション（保育の場における教育相談）、今日的課題 第2回：幼児教育相談の方法と対象 保育カウンセラー制度 第3回：幼児教育相談に求められる技法 援助的な態度、非言語的技法、 第4回：幼児教育相談に求められる技法 言語的な技法（受容・共感・くり返し・要約） 第5回：幼児教育相談に求められる技法 言語的な技法（感情の明確化・支持・保証・質問） 第6回：幼児教育相談に求められる技法 カウンセリングのプロセスと技法 第7回：アセスメント 対象と方法、アセスメントの実際、留意点、発達検査・知能検査 第8回：アセスメント まとめテスト 第9回：援助的・治療的カウンセリング 発達の問題、発達の理解とその援助 第10回：発達障害 知的障害と遺伝子疾患 事例・援助における留意点 第11回：発達障害 注意欠如・多動症（ADHD）事例・援助における留意点 第12回：発達障害 自閉症スペクトラム障害（ASD） 事例・援助における留意点 第13回：援助的・治療的カウンセリング DVと児童虐待 第14回：教育的・開発的カウンセリング 構成的グループエンカウンター・保護者を育てる 第15回：幼児教育相談における連携 地域との連携、小学校との連携 ほか			
定期試験			
テキスト： 子どもの理解と保育・教育相談 第2版 (株 みらい)			
参考書・参考資料等： 特にありません			
学生に対する評価： 定期試験、中間テスト60%、 提出物・レポート課題20%、 受講態度20%			
履修上の注意・メッセージ： 教員と目指す学生として、ふさわしいマナーを守って受講していただきたい（詳しくは、オリエンテーションの時に伝えます）。また、授業内で個人情報を扱うことが多いので、注意して受講してください。			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：新井貴子、橋本樹、渡邊志津子
授業科目名：幼児教育実習指導(幼稚園)	必修	2単位(30時間)	担当形態：複数 / 講義
科 目	教育実践に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教育実習		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>本科目は、幼稚園教諭2種免許状取得のための幼児教育実習の事前事後指導の科目である。事前学習では、これまでの実習で得た自己課題を意識したうえで、幼児教育実習の目的を定め、保育者に求められる役割と行動を理解し、自身に必要な知識・技能の習得に努める。実習後は保育者となる自己の成長と課題を総括する。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>事前学習では、模擬保育などの実践的・体験的経験を重視し、各自が主体的に準備と振り返りを行うことを通して、教材研究や子どもの発達に合わせた適切な指導計画の作成について仲間とともに学ぶ。事後学習では、実習で得た学びと課題を主体的に自己評価し文章にまとめ、更なる保育実践力の向上に向け、テーマを設定してレポートを作成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス(実習の目的と流れ)</p> <p>第2回：実習課題の整理と共有</p> <p>第3回：教育実習開始のための必要書類の作成</p> <p>第4回：幼児の発達理解と遊びの環境設定</p> <p>第5回：幼児理解と専門知識及び技術① 観察の視点と記録の方法</p> <p>第6回：幼児理解と専門知識及び技術② 部分実習指案と責任実習指導案の作成</p> <p>第7回：幼児理解と専門知識及び技術③ 部分実習指導案の検討(内容を中心に)</p> <p>第8回：幼児理解と専門知識及び技術④ 模擬保育前半グループ</p> <p>第9回：幼児理解と専門知識及び技術⑤ 模擬保育後半グループ</p> <p>第10回：幼児理解と専門知識及び技術⑥ 模擬保育振り返りと指導案の修正</p> <p>第11回：教育実習のオリエンテーション準備(実習先調査と実習目標等の作成)</p> <p>第12回：実習における実習生の学びの確認</p> <p>第13回：教育実習及び事前オリエンテーションの心構え(外部講師)</p> <p>第14回：教育実習での使用予定教材の発表</p> <p>第15回：実習にむけて最終確認(校長講話)</p> <p>事後学習：評価票を用いての個別面接、振り返りシートの提出</p>			
<p>テキスト：「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成他編(中央法規)</p>			
<p>参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館</p>			
<p>学生に対する評価：授業への参加・参画状況(40%)、課題・発表(60%)により、総合的に学びの状況を評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：本科目は、幼稚園教育実習の事前事後指導であるだけでなく、1年次に履修している「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」と連動しているため、これまでの実習指導及び実習経験から得た知識や自己課題を意識しながら、主体的に授業課題に取り組むことが求められます。</p>			

児童科保育課程・2年 授業科目名：保育・教職実践演習	区分： 必修	単位数(時間数)： 2単位(30時間)	担当教員名：新井貴子、橋本樹、渡邊志津子 担当形態：複数 / 演習
科 目	教育実践に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教職実践演習		
授業の到達目標及びテーマ： 本演習は、保育・教職課程の他の授業科目の履修等を通じて身につけた資質能力が、最小限必要な程度に形成されたかについて最終的に確認するものであり、2年間の学びの軌跡の集大成として位置づけられる。保育者になるうえで自己の課題は何かを自覚し、不足している知識や技能等を積極的に補い、その定着を図ることが目的である。			
授業の概要： これまでの履修状況を振り返り、自身の課題を整理することから始め、ロールプレイやグループワークを取り入れた演習形式で進める。これからの時代を担う保育者に求められる資質能力を理解し、保育者としての心構えを確かなものにするとともに、保育者としての実践力を磨く機会とし、「保育者としての自分」の課題解決に向け、具体的かつ積極的に取り組むことを望むことが期待される。			
授業計画 第1回：本演習の目的と概要及び留意事項 第2回：既習授業の振り返り（教育・保育実習での気づきや学びの評価） 第3回：実習報告書の作成①（研究テーマの設定と資料の収集） 第4回：実習報告書の作成②（文書の構成と引用ルールの確認及び推敲） 第5回：研究発表会準備①（保育技術と演目決定及び舞台使用について） 第6回：研究発表会準備②（素材の探究・舞台背景の設定） 第7回：研究発表会準備③（保育技術力を高める） 第8回：研究発表会準備④（子どもの立場から互いの演目を評価し合う） 第9回：研究発表会 第10回：実習報告書の作成③ 第11回：実習報告会の準備①（発表者としてのツールの作成） 第12回：実習報告会の準備②（発表方法の検討） 第13回：実習報告会（施設・保育所・幼稚園教育実習を総合して） 第14回：保育者の専門性とは（保育の社会的課題と論点） 第15回：自己課題の自覚と理想とする保育者像の共有			
定期試験 テキスト：「保育・教職実践演習」野津直樹・宮川萬寿美（編著）萌文書林			
参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーバル館等			
学生に対する評価：全授業を通じて学習の様子や気づきをまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に、学びの過程を評価する(70%)、教職実践ファイル(10%)、そのうえで定期試験(20%)により、個々の学びの成果と他者への貢献度を総合的に評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 免許・資格取得のためのすべての実習と履修してきた授業科目全てをふまえ、保育者の専門性について考察します。積極的に自己課題に積極的に取り組むと同時に、クラスの仲間と互いの資質能力を高め合いましょう。			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名： 檜垣 智子
授業科目名： 保育内容総論	必修	2単位 (30時間)	担当形態： 単独 / 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 子どもの発達や集団の状況を踏まえた関わり方や運営方法を理解している。また、子どもの主体的な行動を育み支える指導方法について理解している。			
授業の概要： 子どもやクラス集団の発達の特性や個々の状況を踏まえて、関わり方や運営方法を考える。保育内容を豊かにする遊びや文化財について学び、実践につなげる。保育の歴史を学び、保育内容について理解を深める。			
授業計画 第1回：授業の目標 0歳児の保育内容 第2回：わらべうたについて 第3回：早期母子分離について 第4回：1歳児の保育内容 第5回：2歳児の保育内容 第6回：個人持ちおもちゃを作ろう 第7回：絵本を活用した保育内容 第8回：接続期の子どもへの関わり 第9回：3歳児の保育内容 第10回：わらべうたのグループ発表 第11回：4歳児の保育内容 第12回：意見を調整すること 第13回：5歳児の保育内容 第14回：協同的な保育を育むために 幼小連携 第15回：保育内容の変遷 保育内容総論のまとめ 定期試験			
テキスト： プリントを配布			
参考書・参考資料等： 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価： 定期試験(レポート) (70%) と提出物(20%) と発表(10%) を総合的に判断して評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 特になし			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：橋本 樹
授業科目名：保育内容健康指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び機材の活用を含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う、領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>領域「健康」において、講義と併せて様々な実践的な活動を取り組むことで、幼児期の健康指導に役立つ内容を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・領域「健康」とは</p> <p>第2回：生活指導法①自分の事を知ろう</p> <p>第3回：生活指導法②生活技術における手先の器用さ</p> <p>第4回：食育指導法①箸の持ち方・使い方</p> <p>第5回：食育指導法②調理用具の名称</p> <p>第6回：健康と遊び①指先を動かす折り紙の製作</p> <p>第7回：生活指導法③睡眠の習慣</p> <p>第8回：安全指導法・安全保育の4面カード製作</p> <p>第9回：運動指導法①ラジオ体操</p> <p>第10回：生活指導法④自分史</p> <p>第11回：生活指導法⑤生活画のかるた製作</p> <p>第12回：健康と遊び②指先を動かす昔あそび</p> <p>第13回：運動指導法②運動遊び考察</p> <p>第14回：生活指導法⑥基本的な生活習慣の指導法</p> <p>第15回：保育内容健康指導法まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>『健康』コンパクト版保育内容シリーズ1 谷田貝公昭・高橋弥生 編著 一藝社</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>「保育所保育指針」厚生労働省「幼稚園教育要領」文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業への参加態度(10%)、課題・レポート・演習内容(50%)、定期試験(40%)</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>授業は、全回きちんと受けましょう。私語・飲食・携帯の使用・居眠り・途中退出は厳禁。身支度を整えて受講すること。課題は必ず全て出しましょう。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 紀子
授業科目名：保育内容人間関係指導法	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ：乳幼児期の発達過程・人と関わる力の獲得過程を理解し、領域「人間関係」に関する具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身につける。			
授業の概要：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育内容の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容について理解を深める。乳幼児の心身の発達とともに主体的で対話的な学びができるように具体的事例を通し、まとめ、発表し、保育者としての資質を向上する。また、保育者の役割・援助を考え、保育を構想する方法を探求する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：領域「人間関係」のねらい及び内容 第3回：領域「人間関係」とその歴史の変遷 第4回：「生きる力」の原点としての人間関係 第5回：乳幼児期の「個と社会性」の発達過程 第6回：遊びや生活の中で育つ人間関係 第7回：子どもを取り巻く社会と人間関係 第8回：人間関係の育ち（過程）を支える保育実践 第9回：保育の場における人間関係（子ども・保育者・保護者） 第10回：人との関わりを育てる保育者の役割 第11回：人との関わりが難しい子どもへの支援 第12回：園・家庭・地域の生活と保育者の役割 第13回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的な姿から理解 第14回：「遊びや生活を通した学び」を小学校での学びにつなげる指導の在り方（保幼小連携） 第15回：授業のまとめ「乳幼児期の人間関係の発達・獲得と援助について」と、学びの振り返り 定期試験			
テキスト： 「保育内容人間関係」森上史朗・小林紀子 他編著（ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等： 「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレール館）			
学生に対する評価： 授業での学び・課題（50%）、定期試験（課題・レポート）（50%）			
履修上の注意・メッセージ： 本講座では、保育内容人間関係に関する指導案を構想したり、グループで検討・提案したりする活動を通して、生活を基盤とした子ども主体の保育方法について考察していきます。毎回の授業での学びを充実させ、定期試験で、その成果を発揮して下さい。			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 祥子
授業科目名：保育内容環境指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び機材の活用を含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要：『幼稚園教育要領』をはじめ資料等をもとに、現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境の関わりについて解説し、子どもの状況を観察しながら、保育室内外の物的環境や自然及びその事象等を含め、総合的に環境設定ができる能力を身に付けられるよう実践的に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：幼児教育の基本と保育内容「環境」1 (保育内容の基本的構造と領域「環境」のねらいと内容)</p> <p>第2回：幼児教育の基本と保育内容「環境」2 (保育内容の基本的構造と領域「環境」の内容の取扱い)</p> <p>第3回：子どもの発達と領域「環境」1(幼児期にふさわしい保育室の環境と環境構成)</p> <p>第4回：子どもの発達と領域「環境」2(幼児期にふさわしい園庭等の環境と環境構成)</p> <p>第5回：子どもの発達と領域「環境」3(季節による生活の工夫と自然)</p> <p>第6回：樹木・草花の栽培と観察1(指導計画立案と栽培の実践)</p> <p>第7回：昆虫や動物の飼育1(事例検討)</p> <p>第8回：樹木・草花の栽培と観察2(野菜の生育の観察)</p> <p>第9回：昆虫や動物の飼育2(調査研究)</p> <p>第10回：領域「環境」のねらい・内容の展開の実際1(幼児の遊びの事例検討)</p> <p>第11回：領域「環境」のねらい・内容の展開の実際2(幼児の遊びの事例実践)</p> <p>第12回：領域「環境」のねらい・内容の展開の実際3(幼児の遊びの実践振り返り)</p> <p>第13回：樹木・草花の栽培と観察3(野菜の収穫と振り返り)</p> <p>第14回：領域「環境」のねらい・内容の展開の実際4(身近な施設や情報に関わる活動事例)</p> <p>第15回：振り返りとまとめ～子どもが主体的に学びを深めることができる保育観興とは～</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』その他参考資料等を提示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』その他</p>			
<p>学生に対する評価：授業への参加態度(10%)、レポート・提出物等(40%)、定期試験(50%)により総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：プリント等を配付して授業を行うので、メモを取りながら受講すること。個々で本教科のファイルを作成し、配付されたプリント等は全て綴じておくこと。植物を育て収穫する、植物を使って遊ぶ、公園に出かけワークを行う等、実践的な授業を行う。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 紀子
授業科目名：保育内容言葉指導法	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>乳幼児期の発達過程・言葉の獲得過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身につける。</p>			
<p>授業の概要：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された保育内容の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。乳幼児の心身の発達とともに主体的で対話的な学びができるように具体的事例を通しまとめ、発表し、保育者としての資質を向上する。また、保育者の役割・援助を考え、保育を構想する方法を探求する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：領域「言葉」のねらい及び内容</p> <p>第3回：領域「言葉」とその歴史の変遷</p> <p>第4回：乳幼児期の言葉の発達過程における非言語的コミュニケーションの重要性</p> <p>第5回：相互に伝え合う喜びを味わう過程を支える指導の在り方</p> <p>第6回：文字などで伝える楽しさを味わう過程を支える指導の在り方</p> <p>第7回：模倣の意義と危うさを基盤に、ごっこ遊びの指導の在り方</p> <p>第8回：言葉遊び等を通して、言葉に対する感覚を豊かにする指導の在り方</p> <p>第9回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的な姿から理解</p> <p>第10回：「遊びや生活を通じた学び」を小学校での学びにつなげる指導の在り方（保幼小連携）</p> <p>第11回：特別な配慮を必要とする乳幼児、外国籍の乳幼児等への指導</p> <p>第12回：方言や外国語の多様で豊かな表現等に触れ、言葉を通じた多文化理解</p> <p>第13回：児童文化財の意義と保育の中での活用方法</p> <p>第14回：教材としての絵本や物語、紙芝居等の意義と保育の中での活用（年齢・時期）</p> <p>第15回：授業のまとめ「乳幼児期の言葉の発達・獲得と援助について」と、学びの振り返り</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館）</p>			
<p>参考書・参考資料等：「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」</p> <p>「領域研究の現在〈言葉〉」萌文書林 青木久子・小林紀子著</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業での学び・課題（50%）、定期試験（課題・レポート）（50%）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：本講座では、保育内容言葉に関連する指導案を構想したり、グループで検討・提案したりする活動を通して、生活を基盤とした子ども主体の保育方法について考察していきます。毎回の授業での学びを充実させ、定期試験で、その成果を発揮して下さい。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：佐藤幸江、若杉友恵
授業科目名：保育内容表現指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：複数 / 演習
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び機材の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ： ・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解することができる。 ・幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた表現の特徴を理解することができる。 ・幼児の表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を身につけることができる。			
授業の概要： 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容、内容の取扱いについて、幼児から生まれる表現と保育実践とを関連させて理解を深める。また、幼児期の表現の特徴や発達段階を踏まえ、幼児の主体的な表現活動を保障する保育を具体的に構想し、実践する方法や技能を身につける。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス：「表現」について考えよう(若杉)(佐藤) 第2回：表現とはなにか①：幼児期における表現について考えよう(若杉) 第3回：表現とはなにか②：領域「表現」の趣旨について理解しよう(若杉) 第4回：生活における表現：「砂場遊び・ごっこ遊び」と保育者の役割を考えよう(若杉) 第5回：音楽表現①：スリーコードによる伴奏法について学ぼう(若杉) 第6回：音楽表現②：スリーコードによる伴奏法を実践しよう(若杉) 第7回：造形表現①：造形表現と発達特性を考察しよう(佐藤) 第8回：造形表現②：造形表現活動を提案しよう(佐藤) 第9回：絵本の読み聞かせ①：本の選定をしよう(若杉)(佐藤) 第10回：絵本の読み聞かせ②：読み聞かせをしよう(若杉)(佐藤) 第11回：絵本の読み聞かせ③：読み聞かせをしよう(若杉)(佐藤) 第12回：総合的な表現活動①：グループごとで活動案を作成しよう(佐藤) ※ICTの活用 第13回：総合的な表現活動②：検討した活動案の発表準備をしよう(佐藤) ※ICTの活用 ※模擬保育 第14回：総合的な表現活動③：発表し合おう(佐藤) ※ICTの活用 ※模擬保育 第15回：授業を通して学んだことを整理しよう(若杉)(佐藤)			
定期試験 テキスト：「表現の指導法 改訂第2版」(玉川大学出版)			
参考書・参考資料等： 「幼稚園教育要領解説」文部科学省「幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省			
学生に対する評価： 定期試験(20%) ・音楽・造形・絵本の発表(60%) ・総合的な表現活動(20%)			
履修上の注意・メッセージ： 特になし			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：遠藤 明子
授業科目名：子ども家庭支援論	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	保育に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ： 少子化、情報化社会、子育て環境の変化など、現代社会において子どもたちの姿は多様化している。保育者としてその多様性を理解し発達を保障していくには、背景にある家庭環境への理解が求められる。現代社会における様々な家庭環境の課題を理解し、望ましい支援について考察する。			
授業の概要： 家庭支援の基礎を学ぶとともに、多様な子育て家庭の現状・課題・支援について考察し、支援者として何ができるかを自らに問う。自分自身への洞察を通して、保育者をめざす意識の向上につなげる。			
授業計画 第1回：ガイダンス・家庭の機能と役割 第2回：家庭支援の意義と社会状況 第3回：子ども家庭支援の目的と必要性 第4回：保育の専門性と子育て支援 ー保育園の現状からー 第5回：保育施設における子育て家庭への支援 ー子どもの望ましい生活の在り方ー 第6回：保護者の養育力向上への支援 ーマルトリートメントとアタッチメントー 第7回：支援における保育士の基本的態度 ー保護者対応について①ー 第8回：子育て家庭の抱える課題への理解と支援 ー保護者対応について②ー 第9回：地域の社会資源の活用 第10回：子育て支援施設の現状と推進 第11回：多様な子育て家庭への支援 ー事例考察①ー 第12回：保育所利用の子育て家庭への支援 ー事例考察②ー 第13回：保護を要する子育て家庭への支援 ー事例考察③ー 第14回：地域の子育て家庭への支援 第15回：子育て家庭への以遠の現状と今後の動向 定期試験			
テキスト： 『子ども家庭支援論』谷田貝公昭 監修 和田上貴昭・高玉和子 編著 一藝社			
参考書・参考資料等： 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼稚園教育要領』文部科学省 『幼保連携型子ども園教育・保育要領』内閣府			
学生に対する評価： 授業への参加態度 (20%) 課題・レポート (20%) 定期試験 (60%)			
履修上の注意・メッセージ： 子どもたちが、今おかれている現状と真摯に向き合い、大事にしたいことを共に考えていきましょう。			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岩佐 洋子
授業科目名：子どもの食と栄養	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科目	保育に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ： 1 栄養や食に関する基礎的事項を身につけ、子どもの発達・発育を支える食生活の意義を理解している。 2 他の専門職や保護者と連携し、子どもの生涯にわたる食生活の基礎を築く力を身に付けている。			
授業の概要： 栄養や食事に関する基礎知識、子どもの食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食と栄養などについて理解を深め、発育・発達や生涯にわたる健康を支える食生活の意義を考える。併せて、養護と教育の一体性を踏まえて、保育者として他の専門職や保護者と連携し、子どもの生涯にわたる食生活の基礎を築く力を養う。			
授業計画 第1回：子どもの健康と食生活の意義について 第2回：栄養に関する基礎知識① 炭水化物について 第3回：栄養に関する基礎知識② 脂質について 第4回：栄養に関する基礎知識③ たんぱく質について 第5回：栄養に関する基礎知識④ ミネラルについて 第6回：栄養に関する基礎知識⑤ ビタミンについて 第7回：食べ物の消化と吸収について 第8回：子どもの発育・発達と食生活① 胎児期・妊娠期の食生活について 第9回：子どもの発育・発達と食生活② 乳児期・離乳期の発達と食生活について 第10回：子どもの発育・発達と食生活③ 幼児期の心身の発達と食生活について 第11回：子どもの発育・発達と食生活④ 学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活について 第12回：献立作成と調理の基本について 第13回：乳幼児の食事の実際（乳児や幼児の食と栄養に関する実験・実習） 第14回：食育の基本とその内容について 第15回：家庭や児童福祉施設、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について			
定期試験 テキスト：最新 子どもの食と栄養 ―食生活の基礎を築くために― 飯塚美代子 他編著 学建書院 「オールガイド食品成分表2025」実教出版編修部編 実教出版			
参考書・参考資料等： 「保育所保育指針」厚生労働省、「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府、「授乳・離乳の支援ガイド」厚生労働省			
学生に対する評価： 授業時の課題（35%）、定期試験（課題レポート）（65%）			
履修上の注意・メッセージ： 保育者は、他の専門職や保護者と連携し、食生活の面からも子ども達の発育・発達や健康を支えていることについて、考えを深めて欲しい。また、チームとして課題解決に対処する力を身に付けられるよう、グループワークには積極的に参加して欲しい。			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高嶋 遥香
授業科目名：子どもの健康と安全	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	保育に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ： 子どもの心と身体の健康を保持・増進するために必要な保健的知識を学び、演習を行いながら、保育現場における実践力を身に付ける。アレルギー、感染症、事故対策等に関する近年のデータに基づいたガイドラインを踏まえ、保育における保健的観点から保育環境や援助について具体的に理解する。			
授業の概要： 養護と教育の観点から、乳幼児一人ひとり及び子どもの集団に対して安全に対応できるよう、実践的な演習を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、保健的観点を踏まえた保育環境と援助1（子どもの健康と安全管理） 第2回：保健的観点を踏まえた保育環境と援助2（だっこ・おんぶ、衣服の着脱、おむつ替え） 第3回：保育における健康と安全管理1（マスクの着用、嘔吐下痢の処理） 第4回：保育における健康と安全管理2（沐浴） 第5回：保育における健康と安全管理3（事故防止と安全管理） 第6回：保育における健康と安全管理4（防災対策） 第7回：子どもの体調不良などへの対応1（発熱・嘔吐・咳、脱水・熱中症、子どもと薬） 第8回：子どもの体調不良などへの対応2（発疹から疑われる疾患） 第9回：子どもの体調不良などへの対応3（腹痛から疑われる疾患） 第10回：子どもの体調不良などへの対応4（外科的応急手当） 第11回：子どもの体調不良などへの対応5（内科的応急手当） 第12回：子どものかかりやすい感染症対策（手洗い・うがい、各種感染症の特徴） 第13回：保育における保健的対応1（健康診断等） 第14回：保育における保健的対応2（排泄、食事、アレルギー等） 第15回：健康及び安全管理の実施体制（保健計画）			
定期試験			
テキスト： 「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全」 鈴木美枝子編著 創成社			
参考書・参考資料等： 講義内で必要に応じて随時紹介する。			
学生に対する評価： 授業における演習・提出物等50%、定期試験50%により総合的に評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 授業中は、教員を目指す者としてふさわしい行動を心掛け、マナーを守り、積極的な参加を求める。 詳細は、初回の授業で説明する。			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：加藤 麻里恵
授業科目名：社会的養護Ⅱ	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	保育に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ： 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の内容について、家庭支援も含め、具体的に理解する。 2. 社会的養護における計画・記録・自己評価について理解する。 3. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 4. 事例を考察することで、専門職としての具体的な支援について学ぶ。			
授業の概要： 授業では、教員による講義のほか、映像や資料等を参照しながら具体的な事例を通して、社会的養護の現状を学ぶ。また、グループワークによって、課題をパワーポイントにわかりやすくまとめ、メンバー全員で発表する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション/社会的養護における子どもの理解 第2回：日常生活支援・治療的支援・自立支援 第3回：施設養護の生活特性および実際①乳児院 第4回：施設養護の生活特性および実際②児童養護施設 第5回：施設養護の生活特性および実際③母子生活支援施設 第6回：施設養護の生活特性および実際④児童自立支援施設 第7回：施設養護の生活特性および実際⑤児童心理治療施設 第8回：施設養護の生活特性および実際⑥障害児入所施設・障害者支援施設 第9回：施設養護の生活特性および実際⑦児童発達支援センター 第10回：家庭養護の生活特性および実際 里親・ファミリーホーム 第11回：社会的養護における支援計画と記録および自己評価 第12回：保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 第13回：社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 第14回：社会的養護における家庭支援 第15回：社会的養護の課題と展望 定期試験			
テキスト： 「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護Ⅰ・Ⅱ」 下尾直子/雨宮由紀枝 編著 大学出版			
参考書・参考資料等： 授業を進める中で必要に応じて紹介・提示する。			
学生に対する評価： 定期試験50%、授業の参加状況50%（課題提出、内容充実度、発表などを含む）を総合的に判定して評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 履修者の積極的な授業参加を期待する。講義内容は配布資料やノート等に筆記すること。 事例を考察する課題をグループで取り組み、資料を作成し、それをもとに定められた日に発表をする。 発表資料の不備は減点対象とする。			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小林 祥子
授業科目名：乳児保育Ⅱ	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	保育に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育の内容・方法に関する科目		
<p>授業の到達目標及びテーマ：乳児保育Ⅰで身に付けた3歳未満児の発達過程や特性を踏まえ、援助や関わりについての基本的な知識・技能をもとに、具体的な保育の方法や環境構成等について学ぶ。3歳未満児の生活や遊びを通して保育現場の課題を発見し、それにどのように対応するか根拠を持って考えていくなど、実践に即して理解を深め、より円滑に保育の実践力を習得するための演習を行う。そのほか、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。</p>			
<p>授業の概要：乳児保育の基本的な考え方を駆使して課題に対する最適解を求め、調べ学習や表現活動を通して自ら創意工夫し、考え続ける姿勢を大切にする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、日本の乳児保育と海外の乳児保育</p> <p>第2回：乳児保育の基本①（保育士の専門性と養護の実際）</p> <p>第3回：乳児保育の基本②（保育士の専門性と子どもの遊び・学び）</p> <p>第4回：乳児保育の基本③（園庭・園舎等の環境）</p> <p>第5回：乳児保育の基本④（保育室の環境と安全）</p> <p>第6回：乳児保育における生活①（登園～昼食）</p> <p>第7回：乳児保育における生活②（午睡、対話、活動の流れ）</p> <p>第8回：乳児保育における遊び①（6か月未満児）</p> <p>第9回：乳児保育における遊び②（6か月～1歳未満児）</p> <p>第10回：乳児保育における遊び③（1歳児）</p> <p>第11回：乳児保育における遊び④（2歳児）</p> <p>第12回：ていねいな保育を支える活動①（計画と振り返り）</p> <p>第13回：ていねいな保育を支える活動②（保護者への関わり）</p> <p>第14回：ていねいな保育を支える活動③（防災・特別な配慮を必要とする乳児の保育）</p> <p>第15回：まとめ～現代の乳児保育の課題とその対応</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：大豆生田啓友・おおえだけいこ著『日本が誇る！ていねいな保育』小学館</p>			
<p>参考書・参考資料等：厚生労働省『保育所保育指針』、谷田貝公昭監修『乳児保育Ⅱ』</p>			
<p>学生に対する評価：授業への参加態度10%、レポート・提出物等40%、定期試験50%</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：メッセージ：配付されたプリント等は全て綴じておくこと。乳児保育Ⅰでの学びや保育実習での経験をもとに、感触遊びの実践、乳児用布玩具の作成と発表、DVD視聴、討論などを行う。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山崎 英二
授業科目名：子育て支援	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 演習
科目	保育に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育の内容・方法に関する科目		
<p>授業の到達目標及びテーマ：子育て支援の必要性と意義を、社会的背景を捉えながら理解する。多様な支援の形や実態について学び、その意義と目的、課題や問題点を理解する。保育者として、子育てをする家庭をどのように支えるかという点について、自らの考えを育み表現できる。</p>			
<p>授業の概要：子育て支援の理念と実態、理念が生まれた背景を、歴史的展開をふまえながら学び、それらが現代にどのように受け継がれて来たかを学ぶ。現代の多様な家庭の在り方と価値観を理解し受容する姿勢を学び、関係機関や支援体制などの社会資源を理解し、必要に応じた連携の在り方について考え、クラスで共有する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子育て支援の理念と実態、必要性について</p> <p>第2回：子どもの養育に関する問題の発生と子どもの権利について</p> <p>第3回：子ども家庭福祉の歴史的展開</p> <p>第4回：子育て支援の実施体系 里親制度</p> <p>第5回：子ども家庭支援サービス、子どもの貧困</p> <p>第6回：異文化を背景とする子どもと保護者の支援</p> <p>第7回：発達に困難を覚える子どもと保護者の支援</p> <p>第8回：子育て支援と持続可能な開発目標</p> <p>第9回：地域における子育て支援について</p> <p>第10回：地域資源の理解と活用</p> <p>第11回：児童虐待の現状とその対策について</p> <p>第12回：子育て支援と愛着形成の重要性</p> <p>第13回：子育て支援とソーシャルワークの発展</p> <p>第14回：子育て支援と子ども食堂の運営と実態</p> <p>第15回：現状の子育て支援における課題</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：授業で指示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：『子ども家庭福祉論』吉田明弘（八千代出版） 保育所保育指針、保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説</p>			
<p>学生に対する評価：授業課題（40％）、発表（30％）、定期試験：最終レポート（30％）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：保育現場で出会う園児や保護者の皆さんをいかに支えていくべきかを、「子育て支援」という側面から考え、保育者としての資質を高める機会としてください。</p>			

児童科保育課程・2年 授業科目名：保育実習指導Ⅱ	区分： 必修	単位数(時間数)： 2単位(30時間)	担当教員名：新井貴子、橋本樹、渡邊志津子 担当形態：複数 / 演習
科 目	保育に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育実習		
<p>授業の到達目標及びテーマ：本授業は、保育所実習に向けての事前学習と実習後の振り返り学習で構成される。事前学習では、保育実習の目的と目標・内容に基づき、個々の目標を立てる。保育所保育指針に則り、実践に必要な保育計画の作成方法及び実習日誌の記入法について復習し、模擬保育等を通じて実践する。事後学習では、学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。その後、研究テーマに基づいて討議を行い、文書にまとめて報告会で発表し、保育現場と保育実践についての理解を深める。</p>			
<p>授業の概要：実習の事前準備として、書類や必要物品の作成、模擬保育における指導計画の作成から実践、振り返りを行う。実習後は全体討議を通して自己評価を行い、研究テーマに即して報告書を作成し報告会に臨む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保育所実習の全体計画と書類作成1</p> <p>第2回：保育所実習の課題の理解と目標作成1</p> <p>第3回：保育所保育指針の内容確認（養護と教育）</p> <p>第4回：保育研究のテーマの決定と研究方法の模索</p> <p>第5回：講和聴講と指導案作成1</p> <p>第6回：模擬保育1</p> <p>第7回：保育実習Ⅰの振り返りと次期の課題抽出</p> <p>第8回：保育所実習の課題の理解と目標作成1</p> <p>第9回：講和聴講と指導案作成1</p> <p>第10回：模擬保育1</p> <p>第11回：保育実習Ⅱの振り返りと次期の課題抽出</p> <p>第12回：研究テーマに即したグループワーク1（個人発表・全体発表と討議）</p> <p>第13回：研究テーマに即したグループワーク1（原稿作成）</p> <p>第14回：研究テーマに即したグループワーク1（発表形態の工夫）</p> <p>第15回：保育所実習報告会（保育所実習報告会の振り返り）</p>			
<p>テキスト：阿部アサミ・小林祥子『保育・教育の方法と技術』大学図書出版 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館</p>			
<p>参考書・参考資料等： 一般社団法人全国保育士養成協議会『保育所実習指導のミニマムスタンダードVer.2』中央法規</p>			
<p>学生に対する評価： 授業への参加態度30%、指導案・模擬保育・提出物等40%、報告書及び報告30%により総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ： 実習は保育者として現場で勤務することを身をもって学ぶものであり、実習指導は、その実習のための事前・事後指導である。実習へ参加する学生はぜひ、欠席の無いように努めて頂きたい。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：前田 菜月
授業科目名：器楽合奏	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	保育に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ： 1 様々な楽器の奏法を学習し、表現技術と、現場での実践力を身に付けることができる。 2 楽器の特徴を知り、自らも音を聴く活動を通して、豊かな感性とは何か理解を深めることができる。			
授業の概要： 幼稚園教諭・保育士として適切な音楽的対応や援助を行えるよう、様々な楽器に親しみ、実技経験を増やす。現場での表現活動に対応できる保育者としての音楽的資質を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、音を聴く①(身の回りの音を感じる、探す)、読譜① 第2回：楽器①(鍵盤楽器、カスタネット、すず、タンバリン)音を聴く②(身の回りの音を探す)読譜② 第3回：楽器②(鍵盤楽器、トライアングル、マラカス)、音を聴く③(身の回りの音を鳴らす)読譜③ 第4回：楽器③(鍵盤楽器)、音を聴く④(身の回りの音で遊ぶ)、読譜④ 第5回：楽器④(鍵盤楽器)、音を聴く⑤(身の回りのもので音を作る)読譜⑤ 第6回：楽器⑤(鍵盤楽器の合奏)、音を聴く⑥(季節を感じる音を探す、遊ぶ)読譜応用① 第7回：楽器⑥(鍵盤楽器と打楽器で合奏)、音を聴き感じる⑦(目覚め、朝の音)指揮法①、読譜応用② 第8回：楽器⑦(鍵盤楽器と打楽器で合奏)、音を聴き感じる⑧(昼間の音)、指揮法②、読譜応用③ 第9回：楽器⑧(鍵盤楽器と打楽器演奏発表)、音を聴き感じる⑨(夕方の音)、読譜応用④ 第10回：楽器⑨(トーンチャイム弾き方と譜読み)、音を聴き感じる⑩(夜の音)、読譜応用⑤ 第11回：楽器⑩(トーンチャイム演奏練習) 第12回：楽器⑪(トーンチャイム演奏発表) 第13回：楽器⑫(演奏のテーマを決めて様々な楽器で合奏アレンジ) 第14回：楽器⑬(合奏練習) 第15回：楽器⑭(合奏発表)、読譜に関するまとめ			
定期試験			
テキスト： 「これなら弾ける！保育のうたピアノ伴奏160」監修本間玖美子 三森桂子(ナツメ社)、講師の作成した資料			
参考書・参考資料等： 「ポケットいっぱいのおうた」(教育芸術社)			
学生に対する評価： 演奏発表40%、課題提出と期末レポート40%、授業への取り組み20%。			
履修上の注意・メッセージ： 授業初回からの各自の努力、上達度を重視し総合的に評価します。楽器を大切に扱う、演奏時の礼儀等、マナーを持って受講すること。授業内で使用する鍵盤ハーモニカ(メーカー指定なし)を授業までに各自準備のこと。			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山崎 英二
授業科目名：英語1	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：英語を学ぶ意義を理解し、日常生活に即した英語表現を使用できる。異文化を背景に持つ園児と保護者の現状を理解し対応する英語表現を学び、活用することができる。異文化を理解し、自文化との相違点を考慮することで、自国の文化と文化の多様性について自発的に考え学ぶ習慣を身につける。</p>			
<p>授業の概要：異文化を背景に持つ園児が新たに入園することを想定し、登園から卒園に至る様々な事柄に関する英語表現を学ぶ。保育の実践場面を想定して、ロールプレイやグループ活動等を通して実用的な英語表現を練習する。また異文化をテーマにした副教材を用いて異文化に触れ、文化の多様性を理解する力を育む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：First Step to Childcare English 保育現場で活用できる英語と必要性について</p> <p>第2回：Welcome to Nursery School 園児と保護者を園に迎える表現</p> <p>第3回：Time and Numbers 時間と数の英語表現</p> <p>第4回：Directions 園の周辺を案内する表現</p> <p>第5回：To meet Classmate 園の仲間との出会いを促す表現</p> <p>第6回：Dropping off and Picking up 登園と降園に関する表現</p> <p>第7回：Jobs at Nursery School 保育者の一日に関する表現</p> <p>第8回：Lunchtime 園での昼食に関する英語表現</p> <p>第9回：Toilet Dialog 園での排泄に関する表現</p> <p>第10回：Fighting 園児の間でのトラブルに対応する表現</p> <p>第11回：Injuries and Illnesses 怪我と病気に関する表現</p> <p>第12回：Telephone Calls 電話での対応に関する表現</p> <p>第13回：Field Trip 園外活動に関する英語表現</p> <p>第14回：Baby Care 乳児のケアに関する英語表現</p> <p>第15回：Graduation Day 卒園に関する表現</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：授業中に指示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：『保育の英会話 (Childcare English) 第2版』赤松直子 著 (萌文書林) 『Speaking of Childcare』ピーター・ビンセント著 中里菜穂子 訳 (南雲堂)</p>			
<p>学生に対する評価：プレゼンテーション (30%)、チェックテスト (30%)、定期試験 (40%)</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：異文化を背景とする園児の生活を想定することにより、園児ひとり一人の気持ちに寄り添う姿勢を学ぶ機会としてください。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：佐藤 幸江
授業科目名：ICT活用演習1	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>ICT活用に対する幅広い教養を深め、校務や学習活動を想定し、教員が準備しておく教材等の作成や共有に生かせるスキルを身に付けることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>受講者自身が各種ICT機器を活用し、具体的事例を挙げながら体験的に課題解決を行う機会を積極的に設け、主体的に自身のスキル向上をめざせるようにする。</p>			
<p>授業計画：</p> <p>第1回：授業ガイダンス/学園の情報環境やデータの管理、使用に関する注意点の理解の促進を図る。 第2回：教育の情報化とは/教育現場におけるクラウド利用について理解する。 第3回：SNSの利用/SNSと情報モラルについての理解を深める。 第4回：情報活用能力アップ計画/「情報活用能力スキル診断」、スキルをどう高めるか計画を立てる。 第5回：情報の調べ方・整理の仕方/情報収集・整理の力の向上を図る。 第6回：オンラインフォームの活用/アンケート調査の作り方の基本を理解し、できるようにする。 第7回：表計算アプリの活用/表計算アプリを使って、手軽にデータ活用ができるようにする。 第8回：文書作成アプリの活用/文書作成アプリの使い方の基本の理解を促進する。 第9回：文書作成アプリの活用/文書作成アプリを使って、文書を作成することができるようにする。 第10回：写真・動画のスキル向上/カメラアプリの多様な機能を知る。 第11回：写真を使って情報発信/人に情報を伝えるために写真を活用することができる。 第12回：情報発信力の向上/これまで学んだことを活用して、より伝わりやすい文書を作成する。 第13回：生成AIの活用/生成AIにできること・できないことを理解する。 第14回：レポート作成の準備/グループで「生成AI」に関してディスカッションする。 第15回：レポートの作成/「課題設定—情報収集・整理分析—発信」のプロセスを体験する。</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>〔図解〕AI時代の教師が知っておきたいIT・情報リテラシー（株式会社インプレス）</p>			
<p>参考書・参考資料等：「教育の情報化に関する手引き」文部科学省 「教育の情報化に関する手引き（追補版）」文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>レポートによる定期試験（50%）、授業で作成した文書（30%）、ディスカッションの様子（20%）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：これからの学校教育現場において、ICTの活用ができることは教員の必須条件となります。ぜひ、自身のスキルアップに意欲的に取り組むことをおすすめします。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：ピアノ担当教員
授業科目名：ピアノ I	必修選択	2単位(60時間)	担当形態：複数 / 実技
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：保育現場にて、柔軟にそして自由にピアノ伴奏を行えるよう、童謡曲を用いて基礎的なコード伴奏法を学び、新曲視奏に取り組む。また、ピアノ基礎の授業での学びを活かし、ブルグミュラー25の練習曲・同程度の曲を用いて、ピアノ演奏におけるさらなる知識と技術を習得し感性を磨く。</p>			
<p>授業の概要：実技レッスンを通し、子どもの豊かな感性と表現力を育むために必要とされる、ピアノ演奏の知識・技能を学ぶ。また、実際保育現場にて子どもの感性を養い、表現を引き出すような音楽活動を行えるようにすることを目指す。具体的履修内容(レベル11～20)は別表(※初回授業で配布)で表す。</p>			
<p>授業計画 少人数のクラスに分け、各自の進度に合わせた個別指導を行う。</p> <p>第1回： 第2回： 第3回： 第4回： 第5回： 第6回： 第7回： 第8回： 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回： グレード試験</p>		<p>第16回： 第17回： 第18回： 第19回： 第20回： 第21回： 第22回： 第23回： 第24回： 第25回： 第26回： 第27回： 第28回： 第29回： 第30回： 定期試験</p>	
<p>テキスト：「ブルグミュラー 25の練習曲」北村智恵校訂・解説(全音楽譜出版)他 「子どもとたのしむ童謡カレンダー-Vol. 1, 2」吉田梓監修(音楽之友社)他</p>			
<p>参考書・参考資料等：なし</p>			
<p>学生に対する評価：平常点(20%)、課題曲によるグレード試験(20%)、課題曲による定期試験(60%)により評価する。尚、定期試験受験資格は、定められた必修曲をすべて修了すること(レベル20までの修了)を条件とする。通年科目のため前期、後期いずれか15回のうち3分の1以上欠席した場合、各試験の受験資格を喪失する。また、グレード試験を受験していない学生は定期試験の受験資格を喪失する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：基本的なコード伴奏法は、保育現場でピアノ伴奏をする際に特に重要となる技法である。実際に保育現場で演奏することをイメージし、日頃から自らも楽しく演奏することを心がけるとよい。また、演奏技能をより磨くには、自主学習が大切となってくる。</p>			

児童科保育課程・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：酒井修子、田中正雄、他
授業科目名：教育インターンシップ2	自由選択	4単位(160時間)	担当形態：複数 / 実技
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：学校や保育の現場における様々な職務内容に触れ、それらの補助的体験を通して、実習等で得られた保育者に求められる知識や技能に対する理解を深めるとともに、実践的指導力のさらなる向上をはかる。</p>			
<p>授業の概要：教育インターンシップ2では、以下のような内容が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 週1～2回、各4～8時間程度学校現場・保育現場に通い、授業補助や教科外の様々な活動を通して、幼児や児童と直接関わり、教育活動・保育活動について理解を深める。 2. 本校が用意した短期留学プログラムに参加し、様々な教育現場の実情を観察するとともに、これからの教育について自身の考えをまとめることができる。 <p>終了時に実践とリフレクションの内容をまとめ、報告会にて発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、インターンシップの進め方についてのガイダンス</p> <p>第2回～第14回 研修場所でのインターンシップ実践①（さまざまな教育活動・保育活動の補助、体験的学習の支援、学校行事ボランティア活動等）とリフレクション</p> <p>第15回：インターンシップ中間報告会</p> <p>第16回～第29回 研修場所でのインターンシップ実践②（さまざまな教育活動・保育活動の補助、体験的学習の支援、学校行事ボランティア活動等）とリフレクション</p> <p>第30回：インターンシップ最終報告会</p>			
テキスト：特になし			
参考書・参考資料等：授業の中で適宜配布する			
<p>学生に対する評価：ガイダンスおよび報告会（30%）、活動の記録（50%）、レポート（20%）</p> <p>なお、終了時に240時間の活動を証明する書類を提出すること。</p>			
履修上の注意・メッセージ：履修にあたっては、事前に活動計画書を作成の上、担当教員と面談を行う。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：野下 卓泰
授業科目名：体育理論	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
科目に含めることが必要な事項	体育		
<p>授業の到達目標及びテーマ： 健康の保持増進に身体活動が果たす役割は極めて大きい。そのため本講義では、健康と身体活動との関連について理解すると共に、身近なテーマを題材としてその実態と現代的健康課題について学ぶ。また、子ども及び自らの健康実態を知り、生涯を通じた心身共に健康の保持増進に必要な具体的方策を立てる能力を養うことも目指す。</p>			
<p>授業の概要： 健康、体力に関する概念を把握し、生涯に渡って自ら健康寿命の延伸に寄与する取り組みが行えるための「最新のスポーツ科学の知見」について理解を深める。 ☆課題に対するフィードバックの方法 ◎学生から寄せられた質問や感想等は、必要に応じて授業中に全学生に対しその内容を伝え解説を加える等の対応を行っている。 ◎授業内課題およびレポート等は、翌週以降にコメントを付けて返却する。</p>			
<p>第1回：オリエンテーション 授業概要について 第2回：健康とは？ 第3回：スポーツとは？ 第4回：スポーツマンシップとは？ 第5回：脳科学的根拠を基に子どもとの関わりを考える 第6回：幼少期の身体の発達 第7回：幼少期の運動遊び・スポーツとその指導 第8回：運動遊び・体育指導の基本と実際 第9回：子どもの体力低下について 第10回：スポーツにおけるモチベーション（動機づけについて） 第11回：運動のメカニズム 第12回：スポーツ場面での怪我や病気 第13回：スポーツにおける応急処置、心肺蘇生法の基礎知識 第14回：スポーツと保護者 第15回：これからのスポーツ・体育について</p> <p>定期試験</p>			
テキスト：随時パワーポイントで資料を配布する。			
参考書・参考資料等：◎スポーツマンシップバイブル 中村聡宏著 東洋館出版社			
<p>学生に対する評価： ①授業取り組み（各回課題の内容・ポイントを理解し取り組んでいるか）20% ②グループ課題（授業のテーマについて、グループごとに発表を行う）30% ③定期試験50%（日頃から「子ども・健康・教育・スポーツ全般・福祉」等をキーワードに、新聞・雑誌&インターネット等を利用し情報収集を行い、自身の身の回りの状況に目を向ける習慣を身に付けることが望ましい。）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ： 体育やスポーツについて、皆さんとともに深めていけたらと考えています。卒業するための学びだけでなく、一生涯活かせる学びをしていきましょう！皆さんとお会いできることを楽しみにしています。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：野下 卓泰
授業科目名：体育実技	必修	1単位(30時間)	担当形態：単独 / 実技
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
科目に含めることが必要な事項	体育		
<p>授業の到達目標及びテーマ： 運動やスポーツを通して自己の心身について認識し、またお互いを認め合いコミュニケーションスキルを高め合いながら、心もからだも良い状態に維持・向上させる習慣を身に付けることができる。また、生涯スポーツのきっかけとして「運動は楽しい」という感度を味わうことができる。</p>			
<p>授業の概要： ・自分の体力を把握すると共に、身近にある様々な用具を使い、グループワークやディスカッションを取り入れてスポーツを楽しみ、学生自らが基礎体力を養える援助を行う。 ・実技と並行し、アクティブ・ラーニングの取り組みとして google classroom を利用し、学生各自で作成した運動プログラムを日々実践し、週単位で振り返り自己評価を行う。まとめとしてこれらを資料とし、科学的根拠を基に振り返り、これからの人生における運動やスポーツとの関わりについて、レポートとしてまとめていけるよう働きかける。 ☆課題に対するフィードバックの方法 ◎学生から寄せられた質問や感想等は、必要に応じて授業中に全学生に対しその内容を伝え解説を加える等の対応を行っている。 ◎授業内課題およびレポート等は、翌週以降にコメントを付けて返却する。</p>			
<p>第1回：オリエンテーション 授業概要・評価方法・日々の身体活動について 第2回：鬼遊び① 運動特性の理解 第3回：ベースボール型ゲーム① ゲーム特性の理解 第4回：ベースボール型ゲーム② ゲーム実践 第5回：陸上運動① 運動特性の理解 第6回：ゴール型ゲーム① ゲーム特性の理解（フラッグフットボール） 第7回：ゴール型ゲーム② ゲーム実践（フラッグフットボール） 第8回：ゴール型ゲーム③ ゲーム特性の理解（パスゴールゲーム） 第9回：器械運動① 運動特性の理解 第10回：器械運動② 運動実践 第11回：器械運動③ 機能的特性をどう作るか？ 第12回：ネット型ゲーム① ゲーム特性の理解（フロアボール、プレルボール） 第13回：ネット型ゲーム② ゲーム特性の理解（バレーボール） 第14回：ネット型ゲーム③ ゲーム実践 第15回：ターゲット型ゲーム① ゲーム特性の理解</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト：随時パワーポイントで資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：◎スポーツマンシップバイブル 中村聡宏著 東洋館出版社</p>			
<p>学生に対する評価： ①毎回の授業（各自が到達目標・各回のポイントを意識し取り組んでいるか：授業に臨む準備が良好であるか・コミュニケーションを取りながら行われているか等）60% ②毎回の授業の振り返りレポート 20% ③最終レポート試験（題目「身体活動を通じた自らの心身の変化を科学的根拠を基に分析し、人生を豊かになるための今後の身体活動との関わりを考察する」）20% ※服装はスポーツウェア、靴は運動靴に限定し、それ以外の着用は安全上の観点から参加は認められない。※※授業前は十分な睡眠と適切な食事をとり、体調管理に務めること。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ： 体育やスポーツについて、皆さんとともに深めていけたらと考えています。卒業するための学びだけでなく、一生涯活かせる学びをしていきましょう！皆さんとお会いできることを楽しみにしています。 ※服装はスポーツウェア、靴は運動靴に限定し、それ以外の着用は安全上の観点から参加は認められない。授業前は十分な睡眠と適切な食事をとり、体調管理に務めること。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：冢田 三枝子
授業科目名：特別支援教育総論	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ： <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムや特別支援教育の仕組みや考え方、特別支援学校の教育を理解し、説明することができる。 ・発達障害をはじめとして障害種別の特性等を理解し、説明することができる。 			
授業の概要： 特別支援教育の基本的な考え方や制度、特別な支援を必要とする子どもへの対応や支援の方法等について講義・演習、見学等を通して具体的に考える。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 特別支援教育とは？ 第2回：特別支援教育の理念と展開 第3回：特別支援教育の歴史と現状 第4回：インクルーシブ教育システム推進の仕組みと実際 第5回：早期からの相談と就学先決定 第6回：個別の教育支援計画と個別の指導計画 第7回：小・中学校における特別支援教育 第8回：通級による指導と特別支援学級における指導 第9回：発達障害児等の理解と指導・支援①（学習障害、ADHD、自閉症スペクトラム障害） 第10回：発達障害児等の理解と指導・支援②（言語障害、情緒障害、不登校、虐待・貧困等） 第11回：特別支援学校の教育課程（自立活動を中心に）（※施設見学を実施する場合もあり） 第12回：障害児の理解と指導・支援①（知的障害） 第13回：障害児の理解と指導・支援②（視覚障害、聴覚障害、盲ろう） 第14回：障害児の理解と指導・支援③（肢体不自由、病弱・身体虚弱、重度・重複障害） 第15回：「特別支援教育」まとめ ～共生社会の担い手を育てるため取組～ 定期試験			
テキスト：「教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト：気付き、工夫して、つなげる」小林倫代編著、Gakken			
参考書・参考資料等：「特別支援学校学習指導要領」「学習指導要領解説自立活動編」文部科学省 その他、必要に応じて指示する			
学生に対する評価： 定期試験（50%）、レポート・講義への参加（30%）、課題発表（20%）により総合的に評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 施設見学を実施する場合は、授業計画を入れ替えることがある。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：吉田 浩幸
授業科目名：特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 特別活動及び総合的な学習の時間の意義と原理について理解し、各教科・領域の学習や生徒指導との関係を考えながら実践に生かせるようにする。			
授業の概要： 特別活動及び総合的な学習の時間の目標や内容について理解を深めるとともに、養護教諭の視点を中心に具体的な実践事例の検討や指導案作成等を通してその指導法について学習する。			
授業計画 第1回：学校教育における特別活動及び総合的な学習の時間 第2回：特別活動の目標と内容 第3回：学級活動の内容と実践(1) 学級や学校の生活づくり 第4回：学級活動の内容と実践(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 第5回：児童会活動・生徒会活動の内容と実践 第6回：クラブ活動、学校行事の内容と年間指導計画及び実践 第7回：特別活動における話し合い活動と合意形成 第8回：特別活動と養護教諭の役割 第9回：総合的な学習の時間の目標と意義 第10回：総合的な学習の時間の内容構成 第11回：各学校において定める目標・内容の取扱い(1) 探究課題 第12回：各学校において定める目標・内容の取扱い(2) 単元計画と実践 第13回：特別活動及び総合的な学習の時間の評価 第14回：演習～グループワーク 単元構想案から実践へ 第15回：学校教育における特別活動及び総合的な学習の時間についての振り返り(授業のまとめ)			
定期試験 テキスト： 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」(文部科学省) 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(文部科学省)			
参考書・参考資料等：授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価： 定期試験(70%)及び授業での課題等(30%)を総合して評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 子どもたちにとって学校生活の基盤となる学級や授業を、教員として特別活動をとおしてどのように構想し作り上げるか、その中でとくに養護教諭はどのような役割を果たすことができるかを中心軸に据え、議論しながら授業を進めます。より深い理解へとつなげるためにも主体的・積極的な参加を期待しています。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：中島 朋紀
授業科目名：道徳教育論	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 1. 道徳教育における基本的な考え方や内容を理解し、養護教諭としての研究方法を身につける。 2. 保健行事・活動と関連した道徳教育の構想やと道徳の学習を実践することができる。 3. 道徳教育を担う養護教諭の役割・立場を理解する。			
授業の概要： 人間形成の重要な役割を担う道徳教育の動向と課題を明確にしながら、道徳教育の基礎理論と実践を展開する。基礎理論では、道徳及び道徳教育の基本的な問題にアプローチし、学校における道徳教育を中心に考察する。養護教諭が担う道徳教育、道徳的なケア理論、保健指導としての道徳学習、指導計画、実践的指導について理解を深める。			
授業計画 第1回：教師の道徳意識・基本姿勢—道徳教育の意義— 第2回：道徳の本質と道徳教育 第3回：道徳教育の歩み・変遷 第4回：子ども理解と道徳性の発達 第5回：道徳教育の目標と内容 第6回：道徳教育の全体的構想 第7回：道徳教育の指導計画 第8回：道徳教育と健康教育・安全教育との関係性—ケアと教育— 第9回：道徳教育の実践と道徳授業の構成・展開 第10回：保健指導と関連した道徳実践の指導 第11回：保健指導と関連した道徳学習指導案の作成1：教材・資料について(個人分析) 第12回：保健指導と関連した道徳学習指導案の作成2：教材研究について(グループ・共同研究) 第13回：保健指導と関連した道徳授業の実践・発表(相互評価) 第14回：道徳教育の研究1：保健活動の学校づくり 第15回：道徳教育の研究2：評価と養護教諭の役割			
定期試験 テキスト： 大沢 裕・中島 朋紀編著「ともに考え深めよう！新たな道徳教育の創造」 一藝社 2019年 「小学校学習指導要領(平成29年7月告示)解説特別の教科 道徳編」 文部科学省 廣済堂あかつき			
参考書・参考資料等：配付資料・プリント(授業時の指示)			
学生に対する評価：レポート課題等の評価60%、定期試験40%を踏まえ総合的に評価する。			
履修上の注意・メッセージ： ・養護教諭として道徳教育の実践に携わる立場を学ぶ。 ・道徳教育との関連を図る健康教育、保健指導について自分の考えを発表する。 ・子どもの道徳性をはぐくむ保健・安全指導を構想する。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：吉田 浩幸
授業科目名：生徒指導論	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	生徒指導の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： 生徒指導及び進路指導の意義と原理について理解し、教育課程に基づく指導（学習指導、学級・学校体制づくり等）との関係を考えながら実践に生かせるようにする。			
授業の概要： 児童・生徒を取り巻く社会の変化と近年の生徒指導の現状と課題を理解するとともに、生き方や勤労観・職業観を育てる教育等について、具体的な事例をもとに養護教諭の立場から対応の仕方や指導法について考察する。			
授業計画 第1回：生徒指導の意義と構造 第2回：生徒指導の方法と基盤～養護教諭にとっての生徒指導 第3回：生徒指導と教育課程(1) 問題行動をめぐって 第4回：生徒指導と教育課程(2) 適切な指導をめざして 第5回：生徒指導に関する法や制度(1) 教員と暴力 第6回：生徒指導に関する法や制度(2) 子どもと暴力 第7回：生徒指導体制～生徒指導と教育相談、関係機関との連携 第8回：発達に応じた生徒指導 第9回：個別の課題に対する生徒指導(1) いじめ 第10回：個別の課題に対する生徒指導(2) 児童虐待 第11回：個別の課題に対する生徒指導(3) 不登校 第12回：生徒指導とキャリア教育～勤労観・職業観 第13回：常態的・先行的(プロアクティブ)な生徒指導と養護教諭の役割 第14回：生徒指導にかかわる評価～事例検討 第15回：学校教育における生徒指導についての振り返り(授業のまとめ)			
定期試験			
テキスト：「生徒指導提要」文部科学省			
参考書・参考資料等：授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価：定期試験(70%)・授業での課題等(30%)を総合して評価する。			
履修上の注意・メッセージ： 養護教諭として子どもたち(家庭・地域・関係機関などを含む)とどのように向き合い、何をどのように指導することが望ましいのかをとことん考えましょう。一人ひとりの子どもたちの現実まるごとを受け止めながら関わり、卒業後の生き方にも影響を与えるという、教員としての大いなるやりがいとそれに伴う専門職としての誇りと責任とを感じ取る授業を目指します。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名： 福島 洋子
授業科目名： 教育相談	必修	2単位 (30時間)	担当形態： 単独 / 演習
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： 学校における教育相談の在り方を養護教諭の立場から考え、他の教職員との連携や関係機関との調整を図りながら、校内の教育相談体制の充実に寄与できる資質を身につける			
授業の概要： 教育相談の基本的な知識、考え方、姿勢等を講義及び演習を通して学習する			
授業計画 第1回：オリエンテーション : 授業内容、進め方、評価の仕方などについて 第2回：教育相談とは？定義 教育相談とカウンセリングの違い 教育相談（個別と集団） 第3回：教育相談におけるアセスメント 事例を通してアセスメント・シートを完成させる 第4回：教育相談と第一次予防、第二次予防、第三次予防 それぞれの支援に違い 第5回：教育相談におけるアセスメント（心理検査） 知能検査の実施と結果に対する注意事項 第6回：知能検査とIQの関係 WISCの検査結果と解釈 どのように実践場面で生かすか 第7回：各発達段階に出現しやすい問題（乳児期、幼児期、児童期、青年期） 第8回：第1回～第8回までのまとめテスト 第9回：カウンセリングの基本的技法 相談の背景にある「問題」を捉える 第10回：カウンセリングの基本的技法 傾聴における基本的技法（くり返し、感情の反射、要約） 第11回：カウンセリングの基本的技法 傾聴における基本的技法（明確化） 第12回：カウンセリングの基本的技法 ロールプレイ 第13回：集団でおこなう教育相談 演習 第14回：教師のメンタルヘルス 第15回：学校臨床と保健室対応 まとめ 定期試験			
テキスト： 学校現場で役立つ 教育相談（北大路書房）			
参考書・参考資料等： 特にありません			
学生に対する評価： 定期試験、中間テスト60%、 提出物・レポート課題20%、 受講態度20%			
履修上の注意・メッセージ： 教員と目指す学生として、ふさわしいマナーを守って受講していただきたい（詳しくは、オリエンテーションの時に伝えます） また、個人情報扱う講義が多いので、注意して受講ください			

養護科・2年 授業科目名：教職実践演習	区分： 必修	単位数(時間数)： 2単位(30時間)	担当教員名：榎加代子、千足久美、山本卓也、他 担当形態：複数 / 演習
科 目	教育実践に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教職実践演習		
授業の到達目標及びテーマ： 教職科目および養護の専門科目の履修、養護実習等で習得した養護教諭の実践力のさらなる統合を図り組織人としての教員の資質・能力、また学校保健運営の中核として仕事ができる資質と能力を養う。			
授業の概要： これまでの授業内容や養護実習等の内容を踏まえ、養護教諭の基礎資質形成に関する項目について、討論、事例研究を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（本演習の目的と概要、留意事項） 第2回：養護教諭における教職の意義・役割について（講義・討論） 第3回：教職実践報告会1（グループ及びテーマの決定） 第4回：教職実践報告会2（課題の明確化） 第5回：教職実践報告会3（発表内容検討1：発表資料作成） 第6回：教職実践報告会4（発表内容検討2：配布資料作成） 第7回：教職実践報告会5（リハーサル・発表準備） 第8回：教職実践報告会6（発表・質疑応答・講評） 第9回：教職実践報告会7（報告会の振り返り） 第10回：討論1（養護教諭の行う教育について） 第11回：討論2（養護教諭の行う指導について） 第12回：討論3（危機管理に果たす養護教諭の役割について） 第13回：討論4（教職員及び地域・家庭との連携について） 第14回：教職実践ファイルをもとに振り返り、成果と課題の明確化 第15回：個人発表 2年間の学びを振り返り、今後の課題を明確にする（レポート）			
定期試験			
テキスト： 適宜必要な資料を配布する			
参考書・参考資料等： 「学校保健実務必携」第一法規			
学生に対する評価： 教職実践報告会（40%）、定期試験レポート（50%）、教職実践ファイル（10%）から総合的に判断する。			
履修上の注意・メッセージ： 授業中は、教員を目指す者としてふさわしい行動を心掛け、マナーを守り、積極的な参加を求める。 詳細は、初回の授業で説明する。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小島 尚
授業科目名：公衆衛生学	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	衛生学及び公衆衛生学 (予防医学を含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ： 公衆衛生学は、「社会における組織的な働きかけにより、疾病を予防し、健康寿命を延ばし、身体的・精神的機能を増進させる科学であり技術である」と定義されている。取りまくすべてを対象とするものであり、特に、児童生徒の保健衛生の向上に資する能力の知識を身に着ける。</p>			
<p>授業の概要： 公衆衛生学は、多様な領域で幅広く、様々な年齢、社会的機能に対する制度、社会保障の推進やその機構等の幅広い。1年次で学習した「衛生学」や「予防医学」と関連した内容を学校や地域の課題や問題に反映しながら学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：健康科学を実現するための公衆衛生学（衛生学、予防医学の復習を含めて）</p> <p>第2回：保健統計（日本の健康の現状と課題）</p> <p>第3回：保健統計（疾病分類と死因状況）</p> <p>第4回：疫学（疫学の基礎、基礎統計学）</p> <p>第5回：疫学（調査法と研究法）</p> <p>第6回：疫学（感染症と非感染症の疫学と発生動向）</p> <p>第7回：環境と生活（地球環境と生活環境）</p> <p>第8回：疾病の原因（健診と検診、スクリーニング、演習課題）</p> <p>第9回：精神衛生（心の保健と心身障害）</p> <p>第10回：妊娠・出産から学齢期までの保健</p> <p>第11回：労働衛生（職業生活と健康、勤労者の健康）</p> <p>第12回：中高年齢期の保健（老化と介護を含む）</p> <p>第13回：地域保健と家庭保健</p> <p>第14回：社会保障のシステム</p> <p>第15回：養護教諭が行う学校衛生の振り返り（講義の総まとめ）</p> <p>定期試験</p> <p>なお、遠隔授業等が実施される際には、講義順や内容が変更される場合がある。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>石川 哲也 他著 イラスト公衆衛生学 東京教学社</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>国民衛生の動向 厚生労働統計協会 その他、講義内で必要に応じて随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価： 定期試験と授業中の質問や演習問題、小テストに対する解答等を総合判定で評価する。評価の割合は概ね、定期試験80%、提出物及び授業中の試験等20%程度とする。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ： 公衆衛生学は、養護教員が対応することを求められるすべての範囲を含むといっても過言ではない。これまで身に着けた知識や技術を基に各回の諸問題を具体的事例として解決法や対処法を考える機会ととらえてほしい。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小島 尚
授業科目名：衛生学演習Ⅱ	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 児童生徒が多く時間を過ごす学校において、児童生徒等の健康を保持増進し、学習能率の向上を図るためには、健康的で快適な学習環境を作りあげることが必要である。養護教員として必要となる学校環境衛生活動の実施上の技術的基準を熟知し、至適基準などを身に着ける。			
授業の概要： 本演習の内容は、健康の維持増進、疾病障害からの保護、学習効率の向上、清潔で美しく、快適な生活が出来る環境を図る学校環境に関して測定の意義や方法である。自らから、学校環境に関心を持ち、自ら管理できる能力と態度を養うために講義・実習・課題発表を通して学ぶ。			
授業計画 第1回：学校環境衛生の法的根拠 第2回：学校環境衛生活動の進め方（日常点検、定期検査、臨時検査） 第3回：学校環境衛生活動実習の概要 第4回：学校環境衛生基準と検査方法1（暑さ指数） 第5回：学校環境衛生基準と検査方法2（換気・保湿） 第6回：学校環境衛生基準と検査方法3（採光・照明） 第7回：学校環境衛生基準と検査方法4（騒音） 第8回：学校環境衛生基準と検査方法5-①（飲料水における水質） 第9回：学校環境衛生基準と検査方法5-②（環境水における水質） 第10回：学校環境衛生基準と検査方法6（清潔、衛生害虫） 第11回：学校環境衛生基準と検査方法7（備品、プール） 第12回：環境教育と養護教諭 第13回：結果の活用と保健指導1（指導案作成） 第14回：結果の活用と保健指導2（保健だより作成） 第15回：養護教諭が行う学校衛生環境の振り返り（講義の総まとめ）			
定期試験 一斉授業ではなく演習と講義から構成されるため、グループにより講義順や内容が異なることがある。			
テキスト： 「新訂版学校保健実務必携」学校保健・安全実務研究会（編著）、第一法規（入学時購入済み）			
参考書・参考資料等： 「養護教諭執務のてびき」植田誠治 他（監修）、東山書房 「養護教諭の活動の実際」林典子（監修）、東山書房			
学生に対する評価：定期試験と授業中の質問や演習問題、小テストに対する解答等を総合判定で評価する。評価の割合は概ね、定期試験70%、提出物及び授業中の試験等30%程度とする。			
履修上の注意・メッセージ： 衛生学演習Ⅱは、予防医学や衛生学のみならず、これまで座学や実習で学習した内容を基盤としている。各項目ではそれらの内容を考えながら受講するように心がけてほしい。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高嶋 遥香
授業科目名：養護教諭活動演習	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	学校保健		
<p>授業の到達目標及びテーマ：学校において、保健室の機能と専門性を活かした、効果的な養護活動を展開することのできる資質能力を培うことを目指す。到達目標：児童生徒の心身の健康状態を見立て、健康課題と関連した効果的な養護活動の展開を考え、具体的に説明することができる。</p>			
<p>授業の概要：養護教諭は、学校保健の中核的役割や、関係者との連携におけるコーディネーターの役割等を担う。養護教諭として役割を果たすために、保健室の機能と専門性を活かした養護活動の実践について学習する。場面演習や事例検討を通して、養護活動の学びを深め、実践的な能力を培う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学校保健活動における養護教諭の職務と役割</p> <p>第3回：保健室経営の実際、保健室の機能と専門性の活かし方</p> <p>第4回：保健管理の実際1（危機管理体制の整備と研修）</p> <p>第5回：保健管理の実際2（疾病管理 保護者面談と共通理解）</p> <p>第6回：保健管理の実際3（健康相談 事例の見立て）</p> <p>第7回：保健管理の実際4（健康相談 対応の方法と見届け）</p> <p>第8回：事例検討1（いじめ・不登校・問題行動）</p> <p>第9回：事例検討2（学校内外の関係機関との連携）</p> <p>第10回：事例検討3（災害時・集団対応を想定した保健室経営）</p> <p>第11回：組織活動の実際1（学校保健委員会の運営）</p> <p>第12回：組織活動の実際2（児童生徒保健委員会の運営）</p> <p>第13回：保健教育の実際1（保健教育の場面と内容）</p> <p>第14回：保健教育の実際2（実技演習）</p> <p>第15回：保健教育の実際3（実技発表）、養護教諭活動全体を通したまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「養護教諭の活動の実際 第3版」静岡県養護教諭研究会編著（東山書房）</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>「学校における養護活動の展開」津島ひろ江他（ふくろう出版）</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>レポート（80%）、授業参加状況及び提出物（20%）から総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>講義ではスライド資料を配布する。テキストを用いて予習・復習を行うこと。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：榎 加代子
授業科目名：健康相談活動	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>健康相談活動の定義や沿革について説明できる。また、養護教諭として行う健康相談の視点および進め方の基礎的な知識・技法を習得できる。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>養護教諭の行う健康相談活動の意義を理解し、カウンセリング技法等の基礎的な知識・技術も活用しながら理解を深めていく。更に、事例検討しながら具体的な連携や対応について学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：養護教諭と健康相談（健康相談の定義と沿革）</p> <p>第2回：子どもの健康問題と健康相談</p> <p>第3回：健康相談における連携と子どもの人権</p> <p>第4回：健康相談におけるカウンセリング知識・技術の活用</p> <p>第5回：ストレスマネジメント</p> <p>第6回：保健室でできるリラクゼーション&エクササイズ</p> <p>第7回：普通学校での健康相談</p> <p>第8回：特別支援学校での健康相談</p> <p>第9回：保護者への健康相談</p> <p>第10回：教職員に対する健康相談</p> <p>第11回：健康相談における養護教諭の役割</p> <p>第12回：保健室における面談ロールプレイ</p> <p>第13回：学校内外での連携と対応</p> <p>第14回：養護教諭の力量形成</p> <p>第15回：健康相談活動の総まとめ演習</p>			
<p>定期試験</p> <p>テキスト：</p> <p>「新訂 養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際」三木とみ子 他（ぎょうせい）</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>「新版 養護教諭の行う健康相談」大谷尚子・森田光子 著（東山書房）</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験（60％）と授業態度及び課題提出（40％）の総合判定により評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>ロールプレイや討議など、演習形式を多く取り入れながらの授業内容になります。</p> <p>講義では適宜、追加資料を配付します。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岩佐 洋子
授業科目名：栄養学	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	栄養学（食品学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 1 食生活や栄養状態が、児童・生徒の成長や学び、生涯にわたる健康に深く関わることを理解している。 2 養護教諭として行う、児童・生徒、保護者への食生活と栄養・健康に関わる適切な指導・相談のあり方や、そのための学校内外の専門職との連携について考察している。			
授業の概要： 栄養学の基礎的な知識を学び、食生活や栄養状態が、児童・生徒の成長や生涯にわたる健康の保持・増進の基礎となることを理解する。また、習得した知識等を活用し、教職員や他の専門職と協力・協働し、児童・生徒、保護者に対する相談・指導が適切に行える力を養う。			
授業計画 第1回：栄養とは何か、食生活と健康・疾病との関わりについて 第2回：生涯を通した健康と栄養の関わりについて（「健康日本21」、学校における食育） 第3回：学校における食育について① 学校における食育の意義 第4回：学校における食育について② 食生活と健康に関わる指導・相談対応について 第5回：栄養素の働き① エネルギー源となる栄養素について 第6回：栄養素の働き② 身体をつくる栄養素・たんぱく質について 第7回：栄養素の働き③ 脂質について 第8回：栄養素の働き④ 貧血に関わるミネラル（鉄・Fe）について 第9回：栄養素の働き⑤ その他のミネラル（Na、K 等）について 第10回：栄養素の働き⑥ 脂溶性ビタミンについて 第11回：栄養素の働き⑦ 水溶性ビタミンについて 第12回：代謝調節に関わる栄養素について 第13回：食文化に関わる指導について（年末・年始の行事食をテーマとするグループ活動） 第14回：ライフステージ別栄養① 乳児期、学童期、思春期の栄養について 第15回：ライフステージ別栄養② 成人期、高齢期、妊娠・授乳期、スポーツ栄養について			
定期試験			
テキスト：「イラスト 栄養学総論」第9版 田村 明 他著 東京教学社 「オールガイド 食品成分表 2025」実教出版編修部編 実教出版			
参考書・参考資料等：「食育基本法」農林水産省、「健康日本21」厚生労働省			
学生に対する評価： 授業時の課題・グループ活動成果（35%）、定期試験（課題レポート）（65%）			
履修上の注意・メッセージ： 養護教諭には、食生活と健康の関わりについて、栄養学の視点から考察を深めるとともに、児童・生徒や保護者への指導・相談の対応ができる力が求められている。また、学校においては、チームとしての対応が求められるため、日常から意識して行動するとともに、特にグループワークの際には、ぜひ積極的に参加して欲しい。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：岩佐 洋子
授業科目名：食品学	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	栄養学(食品学を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ： 1 食品の特質を栄養の基礎知識と関連させ、健康の保持・増進との関わりについて理解している。 2 児童・生徒や保護者を対象とした、食生活と健康に関する指導・相談のあり方について考察している。			
授業の概要： 食品の栄養的特質や日常の食生活上の位置づけなどを、健康の保持・増進と豊かな食文化形成の観点から考察する。併せて、食物アレルギーや食中毒等についても理解を深め、養護教諭として適切な対応・対策ができるようにする。			
授業計画 第1回：食品の種類と分類、栄養素、生産様式、用途などについて 第2回：食品成分表の活用について 第3回：食品の栄養成分① 炭水化物について 第4回：食品の栄養成分② 脂質について 第5回：食品の栄養成分③ たんぱく質について 第6回：食品の栄養成分④ たんぱく質の栄養評価について 第7回：食品の栄養成分⑤ ミネラルについて 第8回：食品の栄養成分⑥ ビタミンについて 第9回：食の安全① 食中毒について 第10回：食の安全② 食物アレルギーについて 第11回：食の安全③ 食の安全を守る仕組みについて 第12回：食品の嗜好成分① 色素成分について 第13回：食品の嗜好成分② 香り・味の成分について 第14回：食品の嗜好成分③ スパイスについて(実験・観察) 第15回：食品の機能性成分について 定期試験			
テキスト：「イラスト 食品学総論」第9版 道家 晶子 他著 東京教学社 「オールガイド 食品成分表 2025」実教出版編修部編 実教出版			
参考書・参考資料等：「食育基本法」農林水産省、「健康日本21」厚生労働省			
学生に対する評価： 授業時の課題(35%)、定期試験(課題レポート)(65%)			
履修上の注意・メッセージ： 養護教諭には、食生活と健康の関わりについての知識を児童・生徒、保護者への指導・相談の場面で活かすことが求められる。また、学校においてはチームとしての対応が求められており、グループワークなどの際は積極的に参加し、協力や協働の良さを実感して欲しい。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：小島 尚
授業科目名：薬理概論	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	「微生物学、免疫学、薬理概論」		
授業の到達目標及びテーマ： 薬は目的の器官でその働きを発揮し、代謝され、そして、体外に排泄される。その吸収・分布・排泄に関する化学的な理論と考え方を習得することを目標とする。			
授業の概要： 薬の働きを理解し学ぶのみならず、医薬品の正しい使用や取り扱いなどを身に付け、安全に適切に用いることが要求される。更に、薬の適切な使用方法や薬物乱用防止について周知啓発できるように学べるようにする。薬物は体の中では働くことから、解剖生理学、病理学、微生物学などの関連部分を必要に応じて復習して講義に臨む。			
授業計画 第1回：薬理学総論① 薬理学とは何か 第2回：薬理学総論② 薬力学と薬物動態学 第3回：薬理学総論③ 養護教員のクスリ教育の基礎 第4回：薬理学各論① 自律神経系作用薬（交感神経と副交感神経） 第5回：薬理学各論② 自律神経系2重支配と薬物作用 第6回：薬理学各論③ 中枢神経作用薬の総論 第7回：薬理学各論④ 中枢神経作用薬の各論 第8回：薬理学各論⑤ 抗感染症薬と抗炎症薬 第9回：薬理学各論⑥ 循環器作用薬 第10回：薬理学各論⑦ 血液系作用薬 第11回：薬理学各論⑧ 呼吸器系作用薬 第12回：薬理学各論⑨ 消化器系作用薬 第13回：薬理学各論⑩ 物質代謝や内分泌系などに作用する薬 第14回：薬理学各論⑪ 抗腫瘍薬と漢方薬など 第15回：養護教諭が行う健康管理及び児童生徒指導の振り返り（講義の総まとめ）			
定期試験 なお、遠隔授業等が実施される際には、講義順や内容が変更される場合がある。			
テキスト： わかりやすい薬理学（整理ノート付）安原一、小口勝司著 スーヴェルヒロカワ 医薬品の正しい使い方（指導者用解説）日本学校保健会編（プリント教材）			
参考書・参考資料等： 休み時間のワークブック薬理学 柳澤輝行・小橋史著（講談社） 日本薬局方解説書 広川書店 その他、講義内で必要に応じて随時紹介する。			
学生に対する評価： 定期試験と授業中の質問や演習問題、小テストに対する解答等を総合判定で評価する。評価の割合は概ね、定期試験80%、提出物及び授業中の試験等20%程度とする。			
履修上の注意・メッセージ： 薬理概論は、薬理学の薬の有効性や副作用などを学ぶだけではなく、医薬品の取り扱いや災害時を含めた安全な使用、くすり教育、更に薬物乱用など範囲が広い。そのため、記憶ではなく、実生活に基づく理解する視点で講義を進める。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名： 福島 洋子
授業科目名： 精神保健	必修	2単位 (30時間)	担当形態： 単独 / 講義
科 目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	精神保健		
授業の到達目標及びテーマ： 児童期、青年期の発達課題、問題行動の支援、外部専門機関との連携など、理解を深める			
授業の概要： 本講義は児童期・青年期を中心に、精神的・発達的な問題の理解とその支援について焦点が充てられる。さらに養護教諭として必要とされる、コーディネーターとしての役割、外部機関との連携などについても学ぶ予定である			
授業計画 第1回：本講義のオリエンテーション。子どもの問題行動に関して事例を中心に考える 第2回：子どもの精神発達 第3回：乳児期、学童期の精神保健 学童期の事例について考える 第4回：思春期の精神保健 思春期の事例について考える 第5回：精神疾患の診断基準（DSMとICD） 発達障害 総論 第6回：自閉症スペクトラム障害（ASD） 3つの基本的な症状、用語の変遷、診断基準 第7回：注意欠如・多動症（ADHD） 症状理解、疫学と病因、服薬治療 第8回：限局性学習症（LD） 用語の変遷、文科省による定義、LDの3つのタイプ、特別な配慮 第9回：第1回～第8回までのまとめ（中間テスト） 第10回：発達障害の二次障害とその予防 事例検討（発達障害と不登校を主訴とする児童について） 第11回：知的障害（知的発達症） 定義、疫学と病因、遺伝子疾患 第12回：不登校とひきこもり問題の理解と支援 第13回：子どもの虐待と外部機関との連携 第14回：統合失調症 陽性症状と陰性症状、疫学と病因、薬物療法 第15回：保護者支援 事例検討			
定期試験 テキスト： 子どもの精神保健（診断と治療社）			
参考書・参考資料等： 特にありません			
学生に対する評価： 定期試験・中間テスト：60% 提出物：20% 受講態度：20%			
履修上の注意・メッセージ： 教員と目指す学生として、ふさわしいマナーを守って受講していただきたい（詳しくは、オリエンテーションの時に伝えます）。また、授業内で個人情報扱うことが多いので、注意して受講してください。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：千足 久美
授業科目名：救急処置	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>学校現場でみられる主な傷病についてのフィジカルアセスメントと的確な判断過程を理解し、適切な学校救急対応の考え方と技術を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>講義と救急処置の技術の実技を交え習得する形式とする。学校現場での救急処置の考え方と的確な養護診断と処置ができるようにする。教育と医療の両面を個人とグループの相互学習により対応の基礎と応用を理解できるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション；学校での救急処置の意義と目的、養護過程 保健室来室時の処置判断 第2回：学校救急処置の基本1（緊急性が高い場合の対処と学校内組織体制） 第3回：学校救急処置の基本2 学校で多い傷病の基本的な対応技術、外科（擦過傷・捻挫等）他 第4回：児童生徒に多い傷病事例の対応 実習時の体験から考える 第5回：児童生徒に多い外因性傷病の対処1（創傷・骨折・捻挫・突き指・脱臼） 第6回：児童生徒に多い外因性傷病の対処2（頭部・顔部・眼部打撲、鼻出血） 第7回：児童生徒に多い外因性傷病の対処3（腹部・胸部打撲「心臓しんとう」）、火傷 第8回：児童生徒に多い内因性傷病の対応1（アナフィラキシーショック、喘息、けいれん発作） 第9回：児童生徒に多い内因性傷病の対応2（発熱、熱中症、過呼吸、発疹、感染症） 第10回：児童生徒に多いその他の外因性傷病の対処（歯科・等）、事件、事故時の対応 第11回：事後処理；事故訴訟、コミュニケーションの取り方、共済給付金制度の手続き 第12回：災害時を見据えた救急処置の児童生徒の学習と養護教諭の役割、救急用品の準備 第13回：演習；問題解決型の事例に対する救急対応の判断とその対応 1 第14回：演習；問題解決型の事例に対する救急対応の判断とその対応 2 第15回：救急処置の考え方と技術の振り返り</p>			
<p>定期試験</p> <p>テキスト：「アトラス応急処置マニュアル」（南江堂）</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>学校の応急処置がよくわかる一緊急度の判断とその対応―（東山書房） 「養護教諭のためのフィジカルアセスメント見て学ぶ応急処置の基礎基本」大谷尚子他編著（日本小児医事出版社） 養護教諭のための救急処置<第3版>（株式会社 少年写真新聞社）</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験(50%)、授業内課題(40%)、レポート等提出物(10%)で総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：養護教諭を目指すものとしてふさわしい態度で積極的に参加してください。詳細は最初の授業で説明します。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：榎 加代子
授業科目名：看護学総論	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科目	養護に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ：看護の基礎・基本を踏まえ、代表的な疾患の特徴を理解し、児童生徒の心身の健康課題に対応できる資質能力を培うことを目指す。到達目標：看護の基本概念を理解し、代表的な疾患の特徴と看護について説明できる。ライフサイクルに応じた健康課題とその対応について説明できる。</p>			
<p>授業の概要：解剖生理学・基礎看護学の知識を活用し、学校現場で遭遇する代表的な疾患の特徴(原因、症状、経過、治療)と適切な対応、アセスメントを学習する。また発達段階に応じた健康課題と看護を取り上げ、児童生徒の現代的問題を解決するために必要な知識理解、実践的な資質能力を培う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、看護とは</p> <p>第2回：基本となる看護行為とバイタルサイン</p> <p>第3回：がん、生活習慣病と看護</p> <p>第4回：眼・耳鼻咽喉疾患と看護</p> <p>第5回：呼吸器疾患と看護</p> <p>第6回：消化器・腎疾患と看護</p> <p>第7回：消化器・腎疾患と看護</p> <p>第8回：皮膚疾患・感染症と看護</p> <p>第9回：脳・神経系疾患と看護</p> <p>第10回：循環器疾患と看護</p> <p>第11回：運動器疾患と看護</p> <p>第12回：歯科疾患と看護</p> <p>第13回：小児看護(発育発達、愛着と虐待、PTSD)</p> <p>第14回：思春期看護(性、心の健康、薬物乱用等)</p> <p>第15回：疾病・障害のある子どもの理解、看護の基本概念・代表的な疾患の特徴のまとめ</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト：</p> <p>「新版 学校看護」遠藤伸子 他(東山書房)</p> <p>参考書・参考資料等：「学校保健の動向」日本学校保健会発行</p> <p>「緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図」井上智子他(医学書院)</p> <p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験(60%)、授業参加状況及び提出物(40%)から総合的に評価する。</p> <p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>講義では適宜、追加資料を配布する。テキストを用いて予習・復習を行うこと。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山本 卓也
授業科目名：病理学	必修	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： 養護活動を迅速・的確に実践するために、各疾患の基本知識を習得することを目標とする。			
授業の概要： 病気のなりたちや、身体内での病的変化が実際にどのようなものであるかを学ぶ。つまり病的な状態が引き起こされる原因やなりたちがそれらの疾患の背後にある問題を明らかにする。			
授業計画 第1回：第1章 病理学で学ぶこと、第2章 細胞・組織の損傷と修復、炎症 第2回：第3章 免疫、移植と再生医療 第3回：第4章 感染症 第4回：第5章 循環障害 第5回：第6章 代謝障害 第7章 老化と死 第6回：第8章 先天異常と遺伝性疾患 第7回：第9章 腫瘍① (腫瘍の定義・種類) 第8回：第9章 腫瘍② (腫瘍発生、診断・治療)、第10章 生活習慣と環境因子による生体障害 第9回：第11章 循環器系の疾患、第12章 血液・造血器系の疾患 第10回：第13章 呼吸器系の疾患 第11回：第14章 消化器系の疾患 第12回：第15章 腎・泌尿器、生殖器系および乳腺の疾患 第13回：第16章 内分泌系の疾患、第17章 脳・神経・筋肉の疾患 第14回：第18章 骨・関節系の疾患、第19章 眼・耳・皮膚の疾患 第15回：病理学全般についての振り返り 定期試験			
テキスト： 「系統看護学講座 病理学」 大橋 健一 著 (医学書院)			
参考書・参考資料等： 授業に使用する資料は適宜配布する。			
学生に対する評価： 定期試験(70%)、毎授業終了後の小テスト(30%)			
履修上の注意・メッセージ： 座学のみになるが、養護教諭として今後深く理解していくための基本知識となるため、しっかりと学ぶこと。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：榎 加代子
授業科目名：小児病学	必修	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： 小児各期の成長・発達をふまえ、子どもに多い病気の病態生理と診断治療についての知識を、身につける。養護診断をするために子どもの健康状態をアセスメントする能力を身につけ、健康回復に向けた看護とケアの方法や疾患の予防、健康保持増進に向けた保健指導についての知識を身につける。			
授業の概要： 小児の成長、栄養や治療に用いる薬物、更には学齢期を中心に小児科領域で広くみられる疾患について病態や治療および看護などを広く学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：小児における薬物療法と栄養の役割 第3回：呼吸器系器官における疾患 第4回：川崎病及び心臓における疾患 第5回：血液循環系における疾患 第6回：消化器系器官における疾患 第7回：アレルギー疾患①（食物アレルギーを中心として） 第8回：アレルギー疾患②（気管支喘息、花粉症など） 第9回：中間演習（薬物、栄養、アレルギー、循環器疾患のまとめ） 第10回：学校における注意すべき感染症 第11回：中枢神経系における疾患（てんかんを含む） 第12回：小児における精神医学 第13回：内分泌代謝系に関する疾患 第14回：悪性新生物に関する疾患 第15回：小児科領域で多くみられる疾患の対応の事例検討 定期試験			
テキスト： 「最新育児小児病学 改訂第7版」 黒田泰弘監修 南江堂			
参考書・参考資料等： 講義内で必要に応じて随時紹介する。			
学生に対する評価： 定期試験と授業中の演習問題、小テストに対する解答等を総合的に評価する。 評価の割合は、定期試験60%、提出物等20%、授業中の試験等20%とする。			
履修上の注意・メッセージ： 小児科領域全般の学習を進める中で、予習・復習が大切になります。 詳細は、初回の授業で説明する。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高橋 宏彰
授業科目名：数学2	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：教員採用試験の一般教養の自然分野「数学」についての問題演習および解説を通して、問題解決能力を学び、論理的思考を身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要：教員採用試験の一般教養の自然分野「数学」では主に数学I・Aの内容から出題されている。教員採用試験の過去問の類題を單元ごとに演習を行い、自力で問題が解けるように実践力を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：数の計算①</p> <p>第2回：式の計算①</p> <p>第3回：方程式・不等式①</p> <p>第4回：関数とグラフ①</p> <p>第5回：平面図形・空間図形①</p> <p>第6回：場合の数・確率①</p> <p>第7回：総合演習（数・式の計算、方程式・不等式、関数、図形、場合の数・確率）①</p> <p>第8回：数の計算②</p> <p>第9回：式の計算②</p> <p>第10回：方程式・不等式②</p> <p>第11回：関数とグラフ②</p> <p>第12回：平面図形・空間図形②</p> <p>第13回：場合の数・確率②</p> <p>第14回：総合演習（数・式の計算、方程式・不等式、関数、図形、場合の数・確率）②</p> <p>第15回：総合演習（数・式の計算、方程式・不等式、関数、図形、場合の数・確率）③</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>なし（授業毎に演習プリントを配布）</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>「ルーズリーフ参考書高校数学I・A[改訂版]」（Gakken）</p> <p>「教員採用試験 一般教養の演習問題 問題集「青の一般教養」」（時事通信社）</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験（50パーセント）、授業レポート・小テスト（50パーセント）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>特になし</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：香取 利彦
授業科目名：日本史2	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： 歴史の基本的な考察方法を理解するとともに、主題を設定して追求する学習や地域社会にかかわる学習などを通じて、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。			
授業の概要： 歴史学とは、「いま」の生活を起点にして過去と対話することです。自分自身の「現在」と向き合い、教科書や授業で扱われてきた歴史上の事実以外に存在する多くの事実視野をあてながら、さまざまな視点を育てていく機会を提供する。(近代・現代)			
授業計画 第1回：明治政府の成立 第2回：民権と国権 第3回：憲政と議会 第4回：日露戦争 第5回：世界大戦 第6回：関東大震災 第7回：政党の政治 第8回：満州事変 第9回：内政・外交の変質 第10回：日中戦争 第11回：太平洋戦争 第12回：占領と講和 第13回：国際社会への復帰と戦後処理 第14回：「経済大国」日本の模索 第15回：冷戦後の日本 定期試験			
テキスト： 木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治編『大学で学ぶ日本の歴史』（吉川弘文堂）			
参考書・参考資料等： 詳説日本史図録編集委員会編『詳説日本史図録』（山川出版社）			
学生に対する評価： 定期試験：50% 授業時の小課題：50%			
履修上の注意・メッセージ： 特になし			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：川瀬 一弥
授業科目名：政治・経済概論	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：ともすれば一般人にとって、日々の生活と隔絶した感覚で語られがちな政治や経済分野の話題ではあるが、実際には私たちにつかず離れず存在していて、私たち自身の生き方が問われる領域でさえある。よって、教育者個々にとっては当たり障りなくおさなりに扱うことは許されず、単なる利益不利益 や効率性の観点からのみ政治や経済を考えることの危うさや無意味さに気づくとともに、その重要性や熟知することの必要性を改めて理解することを目標としたい。</p>			
<p>授業の概要：身近な問題が政治的そして経済的にどのような関りを持ち、どのような政治的または経済的な解決策が考えられるか、インタラクティブな質疑応答を通じて考察を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 政治とは何？</p> <p>第2回：日本の政治（1）日本国憲法から国会を考える</p> <p>第3回：日本の政治（2）日本国憲法から内閣を考える</p> <p>第4回：日本の政治（3）憲法規定と政治実態 69条と7条、最高裁判事の国民審査</p> <p>第5回：世論の形成と政治（1）マスメディアの関り</p> <p>第6回：世論の形成と政治（2）新しい政治参加の方法</p> <p>第7回：アメリカの政治 大統領選挙を中心に</p> <p>第8回：イギリスの政治 議会制民主主義の目指すもの</p> <p>第9回：経済とは何？</p> <p>第10回：市場経済の特徴</p> <p>第11回：働くことと貧困と</p> <p>第12回：エネルギーと地球環境</p> <p>第13回：グローバリズム（1）貿易のあり方考える</p> <p>第14回：グローバリズム（2）世界をめぐるお金</p> <p>第15回：地域経済統合と新興国の台頭</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：「民主主義」文部省（角川ソフィア文庫）</p> <p>「大学4年間の経済学を10時間できつと学べる」井堀利宏（角川文庫）</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業中に指示、紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業ごとの振り返り（質問用紙の提出40%）、定期試験（60%）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：生きていくうえで重要であろう政治と経済に関する知識が、実践知として多くの 人々に共有されるようになるためには、やはり教育の現場で、常に問題意識を持ちながら政治と経済を語る 人材が必要であろう。政治的中立性や公益優先の社会創造の理想を否定するものではないが、我々生身の人間 が生きていく社会は常に流動的であり、格差もあり、試行錯誤の末に傷つきもがきながらそれぞれが幸せを追い求めている現実があることの矛盾も、この授業の中で考えてほしい。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：山本 卓也
授業科目名：自然科学	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>本講座では、自然科学史を概観し、科学に対する苦手意識をなくし、科学的なものの考え方を修得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>自然科学（天文学・地学・生物学・化学・物理学・数学）について高校～大学レベルの内容を、自然科学を応用した身の回りにあるものなどの具体的事例を挙げながら学んでいく。</p>			
<p>第1回：自然科学の見方考え方</p> <p>第2回：天文学からはじめよう：天文学と宇宙観</p> <p>第3回：現在の地球</p> <p>第4回：地球史の科学</p> <p>第5回：生命の科学（1）生物の多様性</p> <p>第6回：生命の科学（2）生物間の関係性</p> <p>第7回：生命の科学（3）分子からなる生物</p> <p>第8回：物質の科学（1）化学（原子、分子、化合物）</p> <p>第9回：物質の科学（2）化学（化学エネルギー）</p> <p>第10回：物質の科学（3）物理学の視点</p> <p>第11回：物質の科学（4）量子の世界</p> <p>第12回：数学（1）数学の言葉と論理</p> <p>第13回：数学（2）数学の基本思考</p> <p>第14回：自然科学と数学</p> <p>第15回：自然科学との向き合い方について</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「自然科学はじめの一步」岸根 順一郎・大森 聡一 著（放送大学教材）</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業に使用する資料は適宜配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験（70%）、授業ごとの課題（30%）</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>理科（自然科学）が最も子どもが興味を示す科目だと思います。それを教える教員がまず興味をもち、また子供たちにわかりやすく説明できるようになるために、しっかりと学ぶこと。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：高山 英己
授業科目名：物理学	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態：単独 / 講義
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： <ul style="list-style-type: none"> ・力学、熱力学、電磁気学、波動、現代物理学などの基本的な物理学の概念を理解する。 ・基本的な物理の公式を使って、簡単な計算問題を解けるようにする。 ・物理の原理が日常生活でどのように使われているかを理解し、例を挙げられるようにする。 			
授業の概要： 授業は講義形式で行い、基本的な物理学の概念を理解する。また、各授業で演習問題に取り組む。受講人数等により、授業内容・教材を変更する場合がある。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、力学①（速さ、速度、変位） 第2回：力学②（加速、等加速度運動） 第3回：力学③（落下運動） 第4回：力学④（力、力の合成・分解） 第5回：力学⑤（運動の3法則） 第6回：力学⑥（仕事とエネルギー） 第7回：力学⑤（力学的エネルギー保存） 第8回：熱力学（熱と温度、熱量保存の法則） 第9回：波動①（波の表し方と要素、波の合成・反射） 第10回：波動②（音、弦の振動、気柱の振動） 第11回：電磁気学①（静電気） 第12回：電磁気学②（オームの法則、電力） 第13回：電磁気学③（磁場と電流） 第14回：電磁気学④（電磁誘導） 第15回：現代物理学 定期試験			
テキスト：「高校物理基礎をひとつひとつわかりやすく。改訂版」 長谷川大和・徳永恵理子・武捨賢太郎（Gakken）			
参考書・参考資料等： <ul style="list-style-type: none"> ・「身のまわりの仕組みがわかる 物理について大島まり先生に聞いてみた」 大島まり（Gakken） ・「ニュートン超図解新書 最強に面白い 物理」 和田純夫（ニュートンプレス） 			
学生に対する評価： 授業における演習・提出物（50%）、定期試験（50%）			
履修上の注意・メッセージ： 物理が難しいと感じている人もいるかもしれませんが、物理学は実は私たちの日常生活と深く結びついています。この授業では、難しい数式や理論だけでなく、身の回りの現象を楽しく学びながら、物理の基礎を理解していきます。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名： KIEFER ADAM RILEY
授業科目名： 英語 2	必修選択	2単位 (30時間)	担当形態： 単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： 3. 学生の英語に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を向上させる。 4. 生徒や保護者、職員とのコミュニケーションや、健康に関する内容を簡単な英語で説明する際など、学校保健の現場で英語を効果的に活用する方法について考える機会を提供する。			
授業の概要： 本授業では、基本的な文法の学習、会話の聞き取りと分析、実際のコミュニケーションを模した活動を通して、学生の英語に対する理解と実践的な運用能力を向上させることを目指します。また、将来の養護教諭として、健康に関する内容を簡単な英語で説明したり、心のケアを行ったり、生徒や保護者、学校職員と効果的にコミュニケーションを取るための実践的な英語スキルについても学びます。ディスカッションや実践的な活動、ロールプレイを通じて、学校保健の現場で英語を自信を持って活用できる力を身につけることを目指します。			
授業計画 第1回:コースガイダンス・自己紹介・目標設定 第2回:Be 動詞: Talking about people: Is this your wife? 第3回:形容詞と強調副詞 It's Really Hot! 第4回:現在進行形: What is he doing? 第5回:現在形: My Routine / How often do you...? 第6回:過去形: I Went to Singapore. 第7回:プロジェクト第1 準備 第8回:プロジェクト第1 発表 第9回:前置詞 1: I'm Still at the Office. 第10回:前置詞 2 Let's Meet at Shinjuku Station. 第11回:未来形: Is it Going to Be Hot Tomorrow? 第12回:命令形: I Can't read the Instructions. 第13回: プロジェクト第2 準備 第14回:プロジェクト第2 発表 第15回:コース総復習 - これまでに学習した文法、語彙、主要なポイントを振り返り、理解を深める。			
定期試験			
テキスト： 教師が提供する教材			
参考書・参考資料等： 授業中に指示する			
学生に対する評価： プロジェクト(40%)、ワークシート(20%)、試験(40%)			
履修上の注意・メッセージ： 積極的に授業に参加し、お互いに支え合いながら学習を進めましょう。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：安富 直樹
授業科目名：ICT活用演習2	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
授業の到達目標及びテーマ： 教員として、ICT活用に対する幅広い教養を深め、「ICT情報主任」として現場で活躍することを目指す。子どもたちが情報活用能力を育むための授業力を身に付け、学習環境を整えられることを目標とする。			
授業の概要： GIGAスクール構想により導入された一人1台の情報端末等を利活用し、いかにして日々の授業の中にICT機器を取り入れた授業に取り組んでいくのか等、授業をデザインする。 なお、受講者自身が各種ICT機器を活用し、各教科等での具体的な利用事例を参考にした、実感的な分かり方を意図した模擬授業を想定し、課題解決を行いながら、積極的に取り組んでいく。			
授業計画 第1回：GIGAスクール構想と学校の情報化 ■積極的活用で、アウトプットの質と量を高める。 第2回：国語におけるICT活用 ■録画機能を活用し、スピーチをよりよいものにする。 第3回：算数、数学におけるICT活用 ■図形などの変化の様子を可視化し、繰り返し試行錯誤する。 第4回：社会、地理歴史、公民におけるICT活用 ■国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして、深く分析する。 第5回：理科におけるICT活用 ■観察、実験を行い、動画等を使ってより深く分析・考察する。 第6回：音楽、図画工作、美術、工芸、書道におけるICT活用 ■表現の可能性を広げたり、鑑賞を深めたりする。 第7回：家庭、技術・家庭におけるICT活用 ■アイデアを可視化したり、実習を伴った活動等を振り返ったりすることで、問題解決を充実する。 第8回：生活科、総合的な学習(探究)の時間におけるICT活用 ■振り返りや表現に活用し、活動への意欲を高める(生活科)。情報の収集・整理・発信による探究の質的向上を図る(総合)。 第9回：体育、保健体育におけるICT活用 ■記録をデータ管理し、運動への意欲をもち、新たな課題設定に役立てる。 第10回：外国語におけるICT活用 ■海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、発信力を高める。 第11回：特別の教科 道徳におけるICT活用 ■道徳性を養うための学習活動における効果的な活用法 第12回：特別活動におけるICT活用 ■集団や自己の生活上の課題を解決する(学級活動)。 第13回：特別支援教育におけるICT活用 ■教科指導の効果を高めたり、情報活用能力育成を図ったりするためのICT活用を目指す。 第14回：プログラミング的思考を育むアンプラグド・コンピューティング授業デザインへの挑戦 第15回：学校図書館教育の実際、生成AIを利活用した授業デザインへの挑戦 定期試験			
テキスト： 私たちと情報 探究 情報社会探究編 学研 2021 わたしたちとじょうほう 情報活用スキル編 学研 2021 2025 事例でわかる情報モラル&セキュリティ 実教出版 2025			
参考書・参考資料等 令和元年12月「教育の情報化に関する手引き」 文部科学省 令和2年6月「教育の情報化に関する手引き(追補版)」 文部科学省 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画 文部科学省 民間企業等によるICTの効果的な活用に関する参考資料 文部科学省			
学生に対する評価： 授業内での提出物・発表等(50%) 定期試験またはレポート(50%)			
履修上の注意・メッセージ： 毎時間コンピュータを活用し、全国の授業実践例を調べ、その授業分析をする。また資料をPDFに変換したり、デジタル冊子にしたりしながら、自分の「ICT活用授業事例集」を作成していくような取組を行う。 ICTを積極的に活用した授業実践研究に特化した内容となるため、情報機器の操作に困難はなく、学校現場では「ICT情報主任」として、他の先生方にデジタル機器の使い方を教えたり、校内のデジタル環境を整えたりする情報教育実践者の育成を目的としている。15回すべての出席を目指してほしい。			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：冢田 三枝子
授業科目名：特別支援教育演習	必修選択	2単位(30時間)	担当形態：単独 / 演習
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自閉症を中心に子どもの特性を理解し、指導方法の工夫について考えている。 2 自立活動について理解し、実態に応じた計画を立てられる。 3 自己理解の大切さについて考察している。 			
<p>授業の概要：自閉症教育の歴史や自立活動の変遷を学び、実態を踏まえた自立活動のねらいから具体的な指導方法や教材をグループや全体で検討できる。また、本人の気持ちを大切にされた指導の大切さについて理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・支援の必要な児童生徒の現状</p> <p>第2回：自閉症教育についての歴史</p> <p>第3回：医学的な理解</p> <p>第4回：特性とその教育的対応 社会性に関する課題</p> <p>第5回：特性とその教育的対応 コミュニケーション</p> <p>第6回：特性とその教育的対応 こだわりや常同性</p> <p>第7回：特性とその教育的対応 感覚過敏</p> <p>第8回：自立活動の変遷</p> <p>第9回：自立活動6区分27項目①(前半)</p> <p>第10回：自立活動6区分27項目②(後半)</p> <p>第11回：自立活動を踏まえたねらいの立て方</p> <p>第12回：自立活動から指導の考え方</p> <p>第13回：ケース会議を開く① 事例A</p> <p>第14回：ケース会議を開く② 事例B</p> <p>第15回：学級経営と特別支援教育</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト：「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」文部科学省 「本人参加型ケース会議」 明治図書</p>			
<p>参考書・参考資料等： 特になし</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>定期試験(50%)、レポート・講義への参加(30%)、課題発表(20%)により総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意・メッセージ：</p> <p>教育実習やボランティア等での経験と重ねて考えられるようにすること。</p>			

養護科・2年	区分：	単位数(時間数)：	担当教員名：酒井修子、田中正雄、他
授業科目名：教育インターンシップ2	自由選択	4単位(160時間)	担当形態：複数 / 実技
科 目	大学が独自に設定する科目		
科目に含めることが必要な事項	-		
<p>授業の到達目標及びテーマ：学校現場における様々な職務内容に触れ、教職の補助的体験を通して、実習等で得られた教員に求められる知識や技能に対する理解を深めるとともに、実践的指導力のさらなる向上をはかる。</p>			
<p>授業の概要：教育インターンシップ2では、以下のような内容が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 週1～2回、各4～8時間程度学校現場に通い、学校の様々な活動を通して児童と直接関わり、学校の教育活動について理解を深める。 2. 本校が用意した短期留学プログラムに参加し、様々な教育現場の実情を観察するとともに、これからの教育について自身の考えをまとめることができる。 <p>終了時に実践とリフレクションの内容をまとめ、報告会にて発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、インターンシップの進め方についてのガイダンス</p> <p>第2回～第14回</p> <p>研修場所でのインターンシップ実践①（保健室経営・授業の補助、教育活動体験、学校行事ボランティア活動等）とリフレクション</p> <p>第15回：インターンシップ中間報告会</p> <p>第16回～第29回</p> <p>研修場所でのインターンシップ実践②（保健室経営・授業の補助、教育活動体験、学校行事ボランティア活動等）とリフレクション</p> <p>第30回：インターンシップ最終報告会</p>			
テキスト：特になし			
参考書・参考資料等：授業の中で適宜配布する			
<p>学生に対する評価：ガイダンスおよび報告会（30%）、活動の記録（50%）、レポート（20%）</p> <p>なお、終了時に240時間の活動を証明する書類を提出すること。</p>			
履修上の注意・メッセージ：履修にあたっては、事前に活動計画書を作成の上、担当教員と面談を行う。			